

# 内定者の声

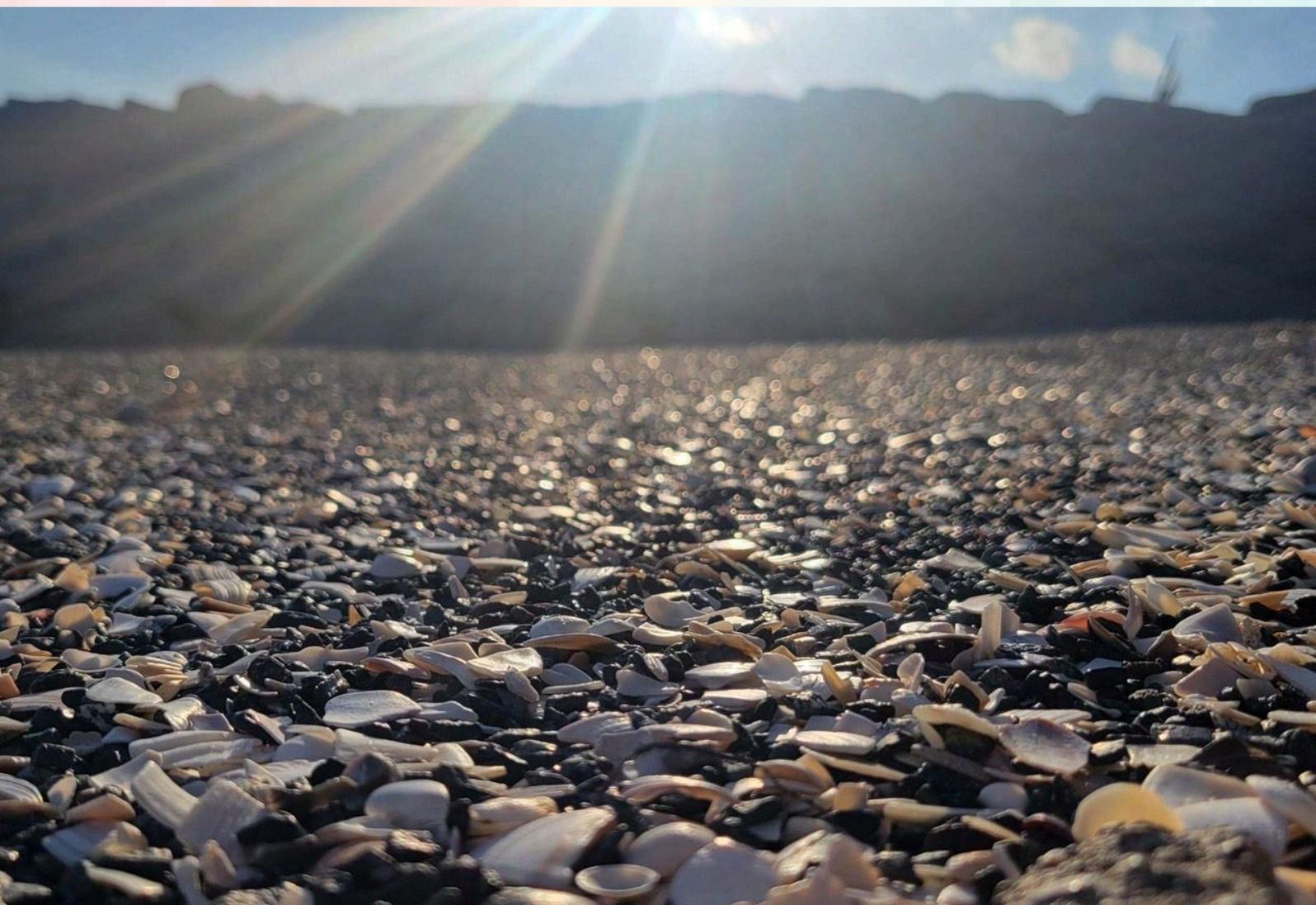
令和7年度  
環境省総合職事務系内定者

# 目次

1. 内定者統計	3
2. 内定者プロフィール	9
3. 試験対策	22
4. 官庁訪問	40
5. 座談会	52
6. 環境省志望者へのメッセージ	66

おわりに

# 内定者統計



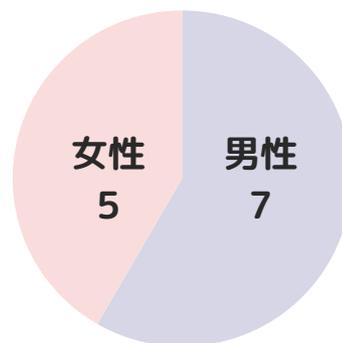
幕張の浜(千葉県千葉市美浜区美浜)にて撮影

# 1. 基本情報

## 出身地



## 男女比



## 出身大学

### 最終学歴

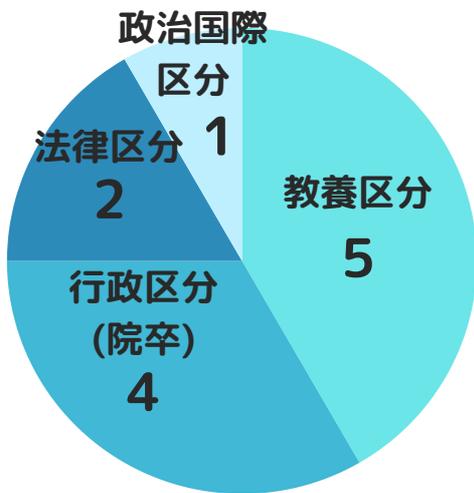
大学	専門分野	人数
北海道大学	公共政策大学院、文学部	2
東北大学	公共政策大学院	1
東京大学	法学部	2
一橋大学	公共政策大学院	1
早稲田大学	法学部	1
京都大学	公共政策大学院、法学部	2
大阪大学	工学研究科(大学院)	1
神戸大学	法学研究科(大学院)	1
立命館大学	法学部	1

### 院卒者の出身大学

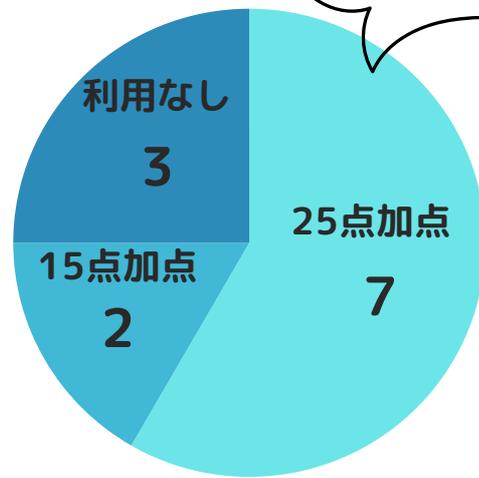
大学	専門分野	人数
北海道大学	法学部	1
筑波大学	人文・文化学群	1
東京外国語大学	国際社会学部	1
京都大学	経済学部	1
大阪大学	工学部	1
神戸大学	法学部	1

## 2. 試験結果

### ● 試験区分



### ● 英語加点

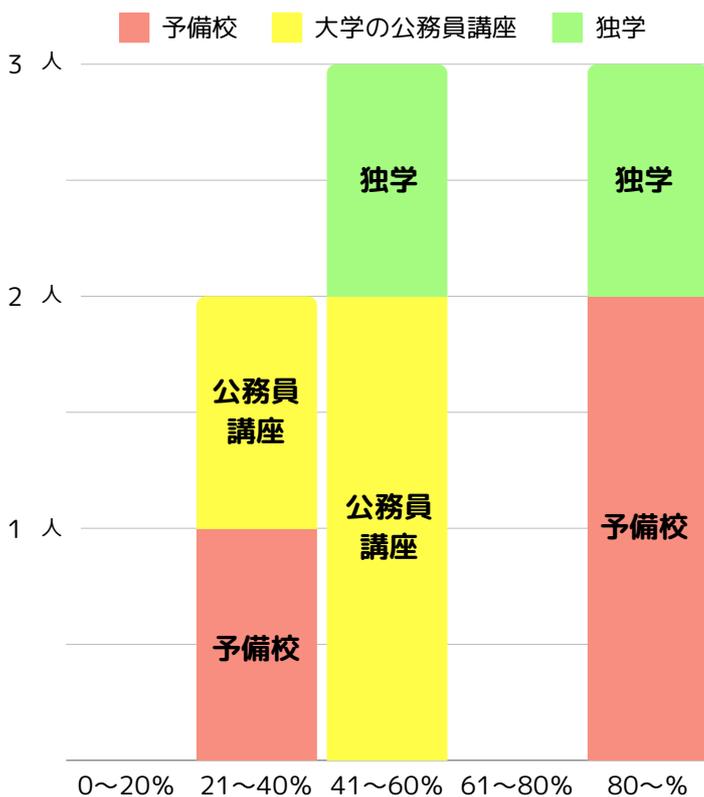


英語加点と席次には相関は見られませんでした

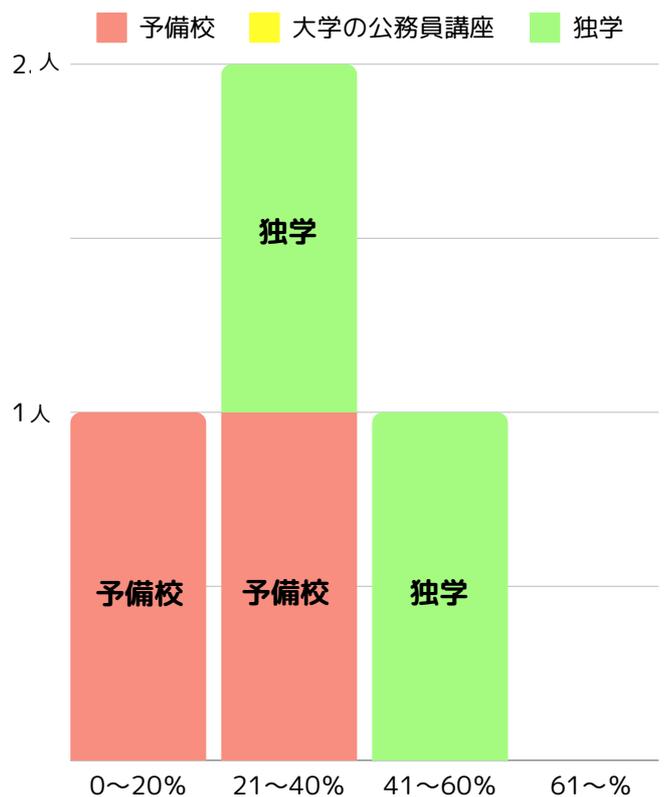
### ● 学習形態と席次

\*縦軸が人数、横軸が席次(上位何%か?)

#### 大卒試験

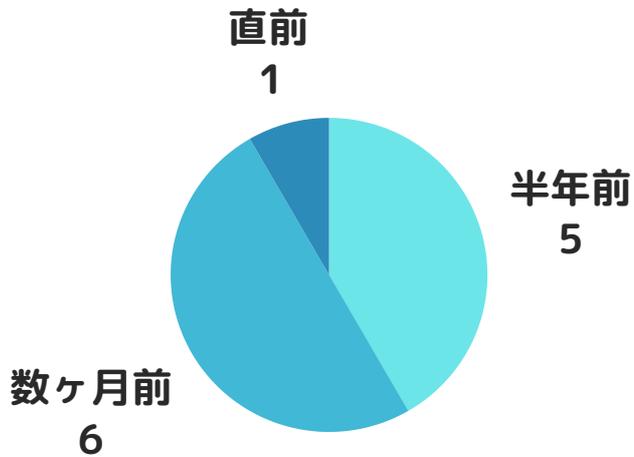


#### 院卒試験

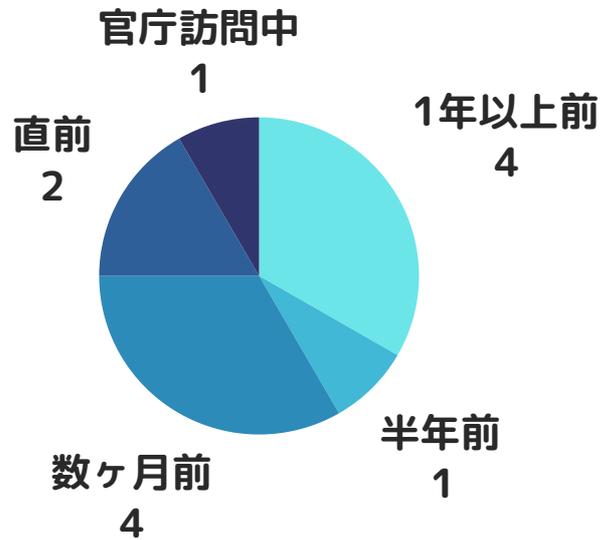


### 3. 時期

- 国家公務員試験対策に本腰を入れ始めた時期

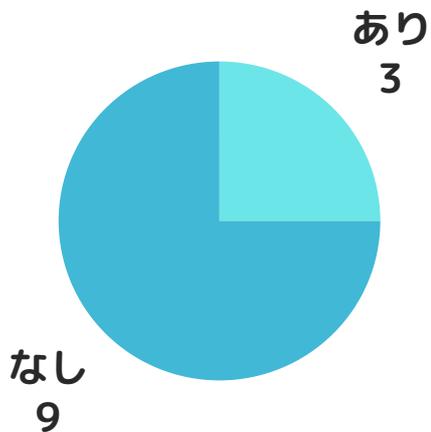


- 環境省の訪問対策に本腰を入れ始めた時期

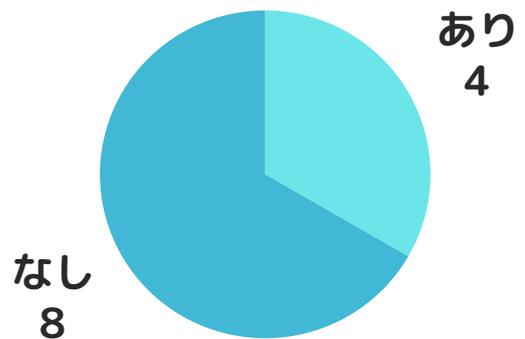


### 4. イベント

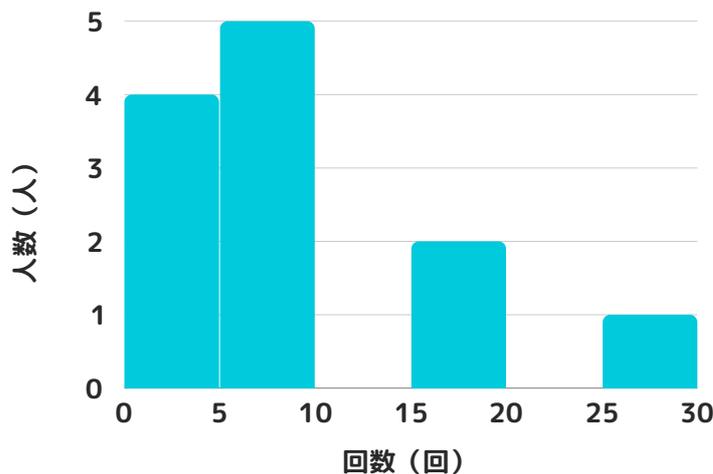
- 職員訪問の有無



- インターン・サマートライアルへの参加有無

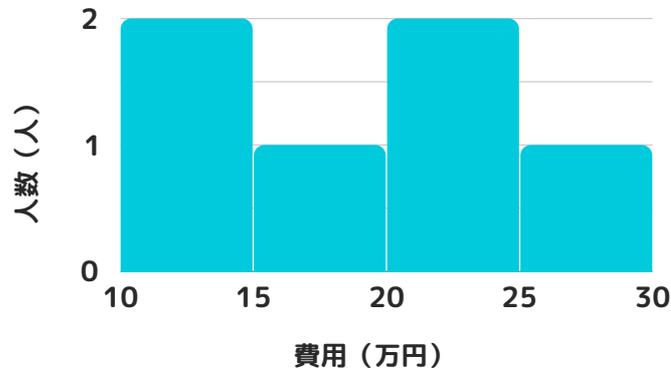


- 環境省のイベント（説明会等）への参加回数



## 5. 官庁訪問

- 官庁訪問にかかった費用（地方在住者のみ回答）



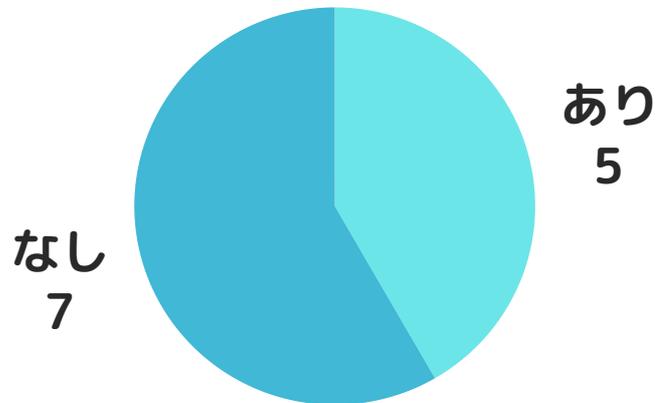
- 内定者別訪問官庁

1日目	環境省						
2日目	農林水産省	農林水産省	農林水産省	文部科学省	国土交通省	会計検査院	総務省自治
3日目	人事院	なし	なし	なし	なし	警察庁	経済産業省

1日目	金融庁	国土交通省	国土交通省	農林水産省	文部科学省 (第2クールから環境省)
2日目	環境省	環境省	環境省	国土交通省	こども家庭庁
3日目	なし	なし	農林水産省	環境省	なし

## 6. その他

- 学生時代の環境活動の参加有無



葛西臨海水族園にて撮影



葛西臨海水族園にて撮影

# 内定者プロフィール



雑賀崎灯台（和歌山県和歌山市）にて撮影

M. A.



### 就活の軸

環境への配慮  
社会貢献性の高さ

試験区分/勉強法  
教養/予備校

大学・学部学科  
早稲田大学  
法学部

出身地  
千葉県

サークル・ゼミ  
ケルト音楽のサークル  
環境法ゼミ

### 趣味

音楽鑑賞、楽器演奏、  
寺社仏閣巡り

おすすめの旅行先  
那須、有馬温泉

### 官庁訪問の 訪問先

1日目：環境省 2日目：農林水産省 3日目：人事院

### 他の志望業界

エネルギー業界、金融業界

### 志望動機・ きっかけ

高校生のときに気候変動、海洋プラスチックごみ問題などの環境問題に強い関心を抱くようになりました。大学では環境法のゼミに所属し、様々な分野に裾野が広がる環境問題の奥深さを実感し、環境問題に正面から取り組むことができる環境省を志望するに至りました。

### 学生時代に 力を入れたこと

大学の授業に力を入れて取り組みました。環境系の副専攻や、法律と社会との関わりをテーマとしたコースの修了を目指しつつ、自分の興味関心に合わせて他学部の授業も積極的に履修して視野を広げました。

S.O.



### 就活の軸

日本の良さを守る  
日本の成長に寄与する

試験区分/勉強法  
行政（院卒）/予備校

大学・学部学科  
神戸大学大学院  
法学研究科

出身地  
奈良県

サークル・ゼミ  
神戸大学ベルカン  
国際関係論ゼミ

### 趣味

絵を描くこと、アニメ視聴、  
バレー観戦、スノボ、カメラ

おすすめの旅行先  
タイ、フランス、  
高知、静岡、奈良

### 官庁訪問の 訪問先

1日目：環境省      2日目：会計検査院      3日目：警察庁

### 他の志望業界

コンサルタント業界、ディスプレイ業界、政府系金融機関

### 志望動機・ きっかけ

海外に行く中で、日本の四季の美しさや自然と人間の共生の様子は他国にはない日本の良さだと感じ、それを守る仕事ができたらなと思い、興味を持ちました。また、途上国への法制度整備支援の研究を大学でしており、法律や制度の重要性を実感し、自身もその担い手になりたいと思って国家公務員を志望しました。

### 学生時代に 力を入れたこと

コロナ禍に、神戸大学を志す高校生に対するサポート体制強化に力を入れました。大学を訪問できない高校生のためにキャンパスツアー動画を作ったり、オンライン座談会を開催しました。学問では、実際に途上国に訪問して司法省の方にお話を伺うなど、現地の声を大事にした研究活動に力を入れました。

R.T.

試験区分/勉強法  
教養/独学

大学・学部学科  
京都大学  
法学部

出身地  
大阪府

サークル・ゼミ  
女子ラクロス部  
行政法

就活の軸

人の役に立つこと

趣味

俳句づくり・カメラ・  
ラクロスの審判活動

おすすめの旅行先

蔵王・フィンランド  
(雪国が好きです)

官庁訪問の  
訪問先

1日目：文部科学省 2日目：こども家庭庁 3日目：なし  
(環境省は第二クール1日目に行きました！)

他の志望業界

なし

志望動機・  
きっかけ

中学生の時のボランティア活動や、地方に住む祖父母の影響で、山や川が幼少期から身近にあったため、自然の美しさや大切さを実感していました。これらを活用した地域活性を行うことができ、持続的な基盤づくりに携わることのできる環境省に強く かけました。

学生時代に  
力を入れたこと

女子ラクロス部の活動に熱心に取り組みました。マネージャーをしていたため、勝利に直接貢献できることはないものの、勝利に責任を持てるように審判資格を取得しました。チームメイトとぶつかることもありましたが、様々なことを学び、人として成長することが出来ました。

S. T.



### 就活の軸

公共性の高い仕事  
手触り感のある仕事

試験区分/勉強法  
法律（大卒）/  
大学生協の公務員講座

大学・学部学科  
北海道大学  
公共政策大学院

出身地  
埼玉県

サークル・ゼミ  
学生団体 自治体への  
政策提言活動

### 趣味

ドライブ旅行（特に湖・岬巡り）  
甘いものを食べること

おすすめの旅行先  
摩周湖

### 官庁訪問の訪問先

1日目：金融庁 2日目：環境省 3日目：なし

### 他の志望業界

インフラ関連業界、コンサル・シンクタンク、独立行政法人

### 志望動機・きっかけ

地域活性化に関心があり、環境を軸に各地域に寄り添って共に考えていくという環境省的なスタイルで地域に貢献したいという思いがあったためです。興味を持ったきっかけは、夏のインターンに参加したことです。オープンで風通しの良い環境省の雰囲気には好印象を持ちました。

### 学生時代に力を入れたこと

政策提言活動ゼミと塾講師のアルバイトです。とりわけゼミでは、実際に現地に赴き、地域の各ステークホルダーへのヒアリングを通して課題を抽出し解決策を検討していくという一連のプロセスを経験できたことが自身の成長に繋がりました。

M. T.



試験区分/勉強法  
教養/大学の公務員講座

大学・学部学科  
大阪大学大学院  
工学研究科

出身地  
千葉県

サークル・ゼミ  
硬式テニスサークル

就活の軸  
人々の持続的な生活の  
土台作りと  
地域活性化に貢献できる

趣味  
硬式テニス、日本旅行、アニメ・ドラマ鑑賞（ジブリ大好きです）

おすすめの旅行先  
屋久島

官庁訪問の  
訪問先

1日目：国土交通省 2日目：環境省 3日目：農林水産省

他の志望業界

地方公務員、民間企業（インフラ業界）

志望動機・  
きっかけ

大学で昨今の環境問題について学ぶ中で、人々の持続的な生活の土台づくりに必要不可欠な環境問題の解決に正面から向き合える環境省の仕事に興味を持ちました。また、官庁訪問等でお会いした職員の方々が持つニーズオリエンテッドの考え方に強く共感し、環境省を志望しました。

学生時代に  
力を入れたこと

廃部目前だった所属サークルの再起に取り組んだことです。対話を通じて部員を巻き込み、皆で連携して新入部員の勧誘活動に取り組んだ結果、部員の約3倍増や活動の活発化に繋げることができました。

H.N.

試験区分/勉強法  
教養/独学

大学・学部学科  
東京大学  
法学部第3類

出身地  
佐賀県

サークル・ゼミ  
ゼミ:現代日本政治

就活の軸  
社会課題解決  
(特に気候変動、  
地方の衰退)

趣味  
ランニング、温泉旅行

おすすめの旅行先  
佐賀県、大分県、  
熊本県

官庁訪問の  
訪問先

1日目：環境省 2日目：総務省自治 3日目：経済産業省

他の志望業界

なし

志望動機・  
きっかけ

近年、地元で豪雨災害が頻発するようになり、日本と世界の  
人々の命と生活、地域を豪雨、猛暑、 魘などの気候変動の脅  
威から守りたいと思ったからです。他にも地域脱炭素の推進や  
循環型社会の実現、プラスチックごみ対策など幅広い環境行政  
に携わりたいと思ったからです。

学生時代に  
力を入れたこと

地域活性化の体験プログラムに参加し、山梨県甲州市の観光振  
興プランを市の職員の方と学生で考案しました。独自性と実現  
可能性を兼ね備えたウォークラリーとスタンプラリーを提案し  
たところ、これまでにない概念を取り入れた点を高く評価して  
いただくことができました。

Y.N.



試験区分/勉強法  
行政（院卒）/予備校

大学・学部学科  
京都大学  
公共政策大学院

出身地  
北海道

サークル・ゼミ  
政策立案のイベントを  
運営するサークル

就活の軸

人との関わり方

趣味  
高校野球観戦、銭湯、  
筋トレ

おすすめの旅行先  
道東

官庁訪問の  
訪問先

1日目：国土交通省 2日目：環境省 3日目：なし

他の志望業界

なし

志望動機・  
きっかけ

（かなり教科書的なつまらない回答にはなってしまいますが、）人との繋がりを尊重する組織風土のもとで、誰かがやらなくてはならない社会の課題に対して、組織の柔軟性を武器に立ち向かってきた環境省の姿勢に魅了され志望しました。

学生時代に  
力を入れたこと

声が大きくよく通るので学生時代はリーダーをやることが多かったです。その経験を通じて、相手の「痛み」に対して想像力を しく働かせた上で、その人の立場や価値観に寄り添うことの重要性を学びました。

T. B.



試験区分/勉強法  
行政（院卒）/独学

大学・学部学科  
一橋大学  
公共政策大学院

出身地

サークル・ゼミ  
模擬国連 国際法ゼミ

就活の軸

環境に携われる  
公共性の高い仕事

趣味

博物館めぐり  
野球観戦 将棋

おすすめの旅行先  
草津温泉

**官庁訪問の  
訪問先**

1日目：環境省 2日目：農林水産省 3日目：なし

**他の志望業界**

国立研究開発法人（事務職・総合職）

**志望動機・  
きっかけ**

小さいころから自然に触れることが多く、環境問題解決に貢献できるような仕事に携わりたいと考えていました。実現可能性や公益性を念頭に置いて環境問題に携われることや、様々な視点から環境問題に取り組むことができることに魅力を感じ、環境省を志望しました。

**学生時代に  
力を入れたこと**

学部時代には、サークルの運営に力を入れました。1年間の運営活動の中で行う様々なイベントの準備や、そのスケジュール調整・管理などを行いました。また、統括として運営チーム内外の調整などに注力しました。

K.Y.



就活の軸

公務員になる

試験区分/勉強法  
法律/大学生協の公務員  
講座

大学・学部学科  
北海道大学  
文学部

出身地  
新潟県

サークル・ゼミ  
カーリング、農業系

趣味

マンガ、KPOPを聞く

おすすめの旅行先

知床、函館

官庁訪問の  
訪問先

1日目：農林水産省 2日目：国土交通省 3日目：環境省

他の志望業界

地方上級、国税専門官、国会職員

志望動機・  
きっかけ

誰かにとっての大切な自然を将来にわたり守っていきたくて思ったことが環境省に興味を持ったきっかけです。私は海や山といった地元の自然に囲まれて育ったのですが、自己分析を進める中で自身の大切な思い出にそれらが欠かせないものだったと気づき、何らかの形で携わりたいと考えるようになりました。

学生時代に  
力を入れたこと

カーリングサークルでの活動に力を入れていました。特に後輩にレギュラーを奪われた際には、悩むことも多く精神的に苦しかったです。しかし、チームへの貢献と自分自身の成長という目標を持って諦めずに練習を続けた結果、目指していた大会でプレーすることができました。

A.Y.



試験区分/勉強法

政治・国際・人文区分（大卒）/大学の公務員講座

大学・学部学科

立命館大学  
法学部法学科

出身地

長野県

サークル・ゼミ

現代日本政治論（計量政治学）ゼミ

就活の軸

ミクロなまなざしとマクロな視野の両方をもって仕事ができること

趣味

一人旅、野球観戦

おすすめの旅行先

長野県（海以外の魅力が詰まっています！）

官庁訪問の訪問先

1日目：環境省 2日目：国土交通省 3日目：なし

他の志望業界

衆議院事務局、参議院事務局、国立国会図書館、地方上級（長野県）

志望動機・きっかけ

地方で生まれ育った経験から地域活性化への思いが強く、地域脱炭素に興味をもったことがきっかけです。そのうえで環境省では、ミクロなまなざしで地域や弱い立場に置かれた人々に寄り添うとともに、幅広い視野で将来を見通して政策を実施できると考え、志望しました。

学生時代に力を入れたこと

学業に最も力を入れました。学部で専攻した政治学を中心に、知識や考え方を習得することが好きで、学べば学ぶほど世界が広がっていく感覚がありました。「学生の本分は勉強」という大義名分のもとに、自らの興味をもつ研究に没頭できる時間を楽しんでいました。

K. Y.



### 就活の軸

自分の生き方に近いことをしているかどうか

試験区分/勉強法  
行政（院卒）/独学

大学・学部学科  
東北大学  
公共政策大学院

出身地  
愛知県名古屋市

サークル・ゼミ  
体育会剣道同好会、  
天久保レコンギスタ

趣味  
歩き回ること

おすすめの旅行先  
沖縄県

### 官庁訪問の 訪問先

1日目：環境省 2日目：農林水産省 3日目：なし

### 他の志望業界

国家専門職(法務教官)

### 志望動機・ きっかけ

幼少期から山、海、川などの自然に親しみ、恵みを得て来ました。そこで、このような日本の豊かな自然を次世代に繋げていきたいと考えたことがきっかけです。また、民間企業、地方公共団体、地域住民の方々を国の立場から支えたいと思ったことから環境省を志望しました。

### 学生時代に 力を入れたこと

とにかく様々なバックグラウンドを持つ人々と交流しました。所属していた剣道同好会では、文理問わず様々な学部の学生と交流し、剣と併せて知識も交えました。また、留学生も在籍していたため、日本と外国での剣道の在り方の違いなどについて楽しく話していたことを覚えています。

K. Y.



就活の軸

次世代に繋げること

試験区分/勉強法  
教養/予備校・大学の有志団体

大学・学部学科  
東京大学  
法学部第1類

出身地  
神奈川県

サークル・ゼミ  
馬術部(1年時のみ)

趣味  
野球観戦・ゲーム

おすすめの旅行先  
北海道

官庁訪問の訪問先

1日目：環境省 2日目：文部科学省 3日目：なし

他の志望業界

特になし

志望動機・きっかけ

東日本大震災がきっかけで日本のエネルギー問題に興味を持つようになりました。就活の軸として次の世代に繋げる仕事をしたいと考えた時に、日本の未来をダイレクトに支える仕事はここでしか出来ないな、と感じました。また、説明会に何度も出席する中で職場・職員さんの雰囲気がとても良いことが分かり、自分の希望にとってもマッチしていました。

学生時代に力を入れたこと

高校生の時は英語ディベートをやっていました。論理的思考力や、コミュニケーション能力が鍛えられたと思います。大学に入ってから、1年間だけですが馬術部に入っていました。毎日練習をされており、馬の世話も並行してやっていたため、体力がつき、また動物との関わり方も学びました。また、カフェのバイトを4年近く続けており、ホスピタリティや同僚と協力して仕事をする事の大切さを学んできました。

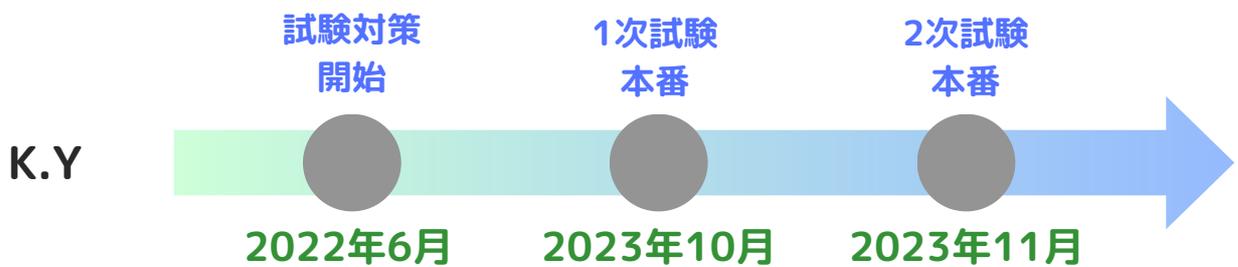
# 試験対策



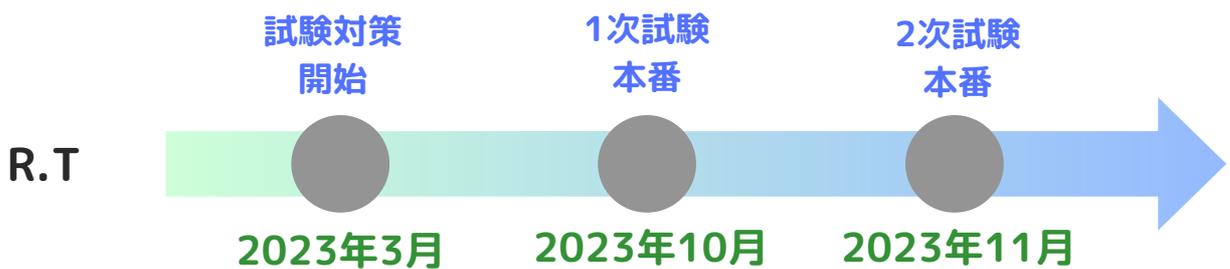
大山(神奈川県)にて撮影

# 教養区分(大卒)

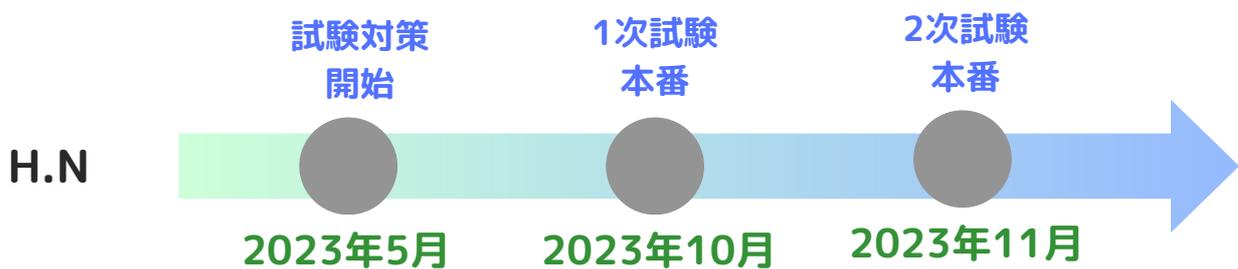
## 1. 勉強スケジュールなど



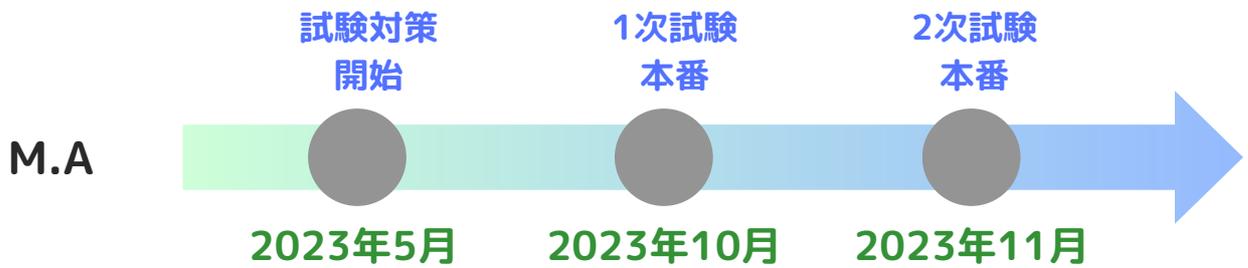
試験区分と大学・大学院で学んでいることの関連性：なし  
試験対策の形態：予備校



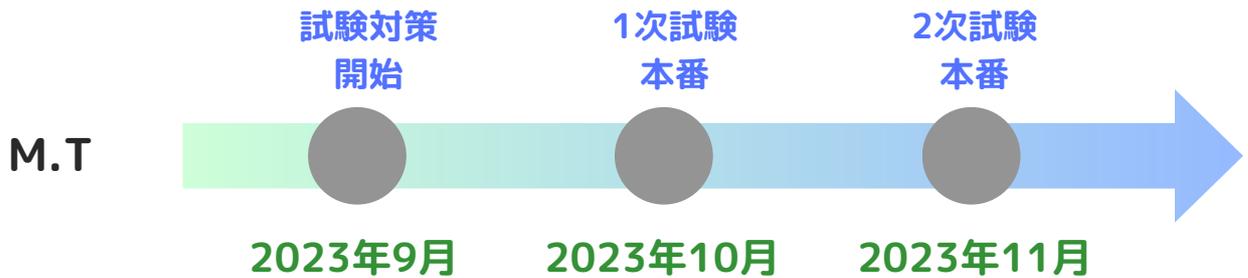
試験区分と大学・大学院で学んでいることの関連性：なし  
試験対策の形態：独学



試験区分と大学・大学院で学んでいることの関連性：なし  
試験対策の形態：独学



試験区分と大学・大学院で学んでいることの関連性：なし  
 試験対策の形態：予備校



試験区分と大学・大学院で学んでいることの関連性：なし  
 試験対策の形態：公務員講座（大学生協）

## 2. 勉強方法

### 【一次試験(専門択一)】

- 参考書を元に演習を行いました。
- 基礎能力試験は市販の参考書と高校の教科書などで知識をインプットし、市販の問題集と過去問で知識が定着しているか確認していました。
- 予備校の授業の動画をひたすら見て試験範囲をインプットし、問題集や過去問を使ってアウトプットの練習をしました。
- 予備校の授業を見てインプットをしました。筆記は過去問を3年ほど解きました。
- 基本的に数的処理の対策に重点を置いていました。練習問題をひたすら解き、問題に慣れることを意識していました。他の分野については大学受験勉強でやったことの確認という感覚でやっていました。
- 数的処理の特殊な解法を勉強しました。

## 【一次試験(総合論文)】

- 参考書を読んでいました。
- 予備校の講義を一度受けたのみです。
- 予備校の授業を見てインプットをしました。予備校の論文添削を利用したり、模範解答例を読んだりして対策しました。
- 塾の添削を利用していました。何回か時間を測って練習し、実践的な練習をしていました。
- 市販の時事解説書や新聞、ニュースで知識をインプットし、また、ニュースについて自分の意見を持ち、過去問を解き、先輩や友人に添削してもらっていました。
- 論文は対策できていなかったです…。ただ、普段研究をする中で、論文を書いた経験や、ゼミに向けた資料作りの中で、資料調査を踏まえて課題背景をまとめ、研究案を作ってきた経験が活かされたかなと思います。

## 【二次試験(政策討議)】

- 京僚会(関西の国家公務員志望者を支援する団体)などに参加し、模擬対策をしていました。
- BONDという東大の公務員試験勉強会(今年のCRASの前年verです)で練習会をしました。政策討議、企画提案は自分たちでテーマ、資料を用意してグループで練習、日頃からニュースを見ることを心がけて最近の政策についても勉強していました。
- 政策討議は公務員講座の対策会で一度実践形式を経験してから臨みました。
- 予備校で開催されていた政策討議の対策会に参加したほか、同じ大学の受験生とも集まって練習しましたが、それ以外には特に対策していませんでした。
- 大学の試験対策グループで2回練習しました。
- 試験の形式・内容を確認し、イメトレをしていました。

## 【二次試験(企画提案)】

- 京僚会などに参加し、模擬対策をしたり友人と話して理解を深めたりしました。また総務省の説明会（該当分野）にも参加しました。
- ニュースや新聞、ネットなどで情報収集し、大学の試験対策グループの先輩を相手に2回発表練習をしました。
- 事前に公表された参考資料（白書等）を読み、キーワードを押さえることと、想定質問（公務員講座の中で1,2個もらいました）への回答を作ること、の2つをしました。
- 自分で与えられた資料を読み込み、関連書籍を読むことで施策の全体像を組み立てていました。その後は予備校の先生にアドバイスをもらってブラッシュアップをしました。
- 試験の形式・内容を確認し、イメトレをしていました。

## 【二次試験(人事院面接)】

- 京僚会などに参加し、模擬対策をしていました。
- 内定者の方に見ていただきました。
- 自己分析と面接カードに書いたことの深掘り、想定質問作りをやり、大学の試験対策グループの先輩を相手に1回面接練習をしました。
- 面接シートの練り上げをメインにやっていました。実際に大学の有志団体の先輩や塾の先生と面接の練習や面接シートの内容に関しての相談を行いました。
- 面接は公務員講座の対策会で一度実践形式を経験してから臨みました。準備不足ではありましたが、民間の就活での経験や大学のゼミにて様々なテーマで議論をしてきた経験が活かした部分もあったと思います。
- 予備校の模擬面接を複数回受けて練習しました。

### 3. 心構え・アドバイス

#### 【一次試験】

- 筆記に関しては地道に努力するのがいいと思います！
- とにかく範囲が広いので、完璧を目指さずインプット→アウトプットをどんどん繰り返すことを意識していました。あと、塾講師のアルバイトをしていたので高校範囲の勉強内容を覚えていたことも役に立ったのかなと思います。
- 一次試験では、特に論文試験の試験時間が長く、途中退席する人が多いです。そのような状況の中でも焦る必要は全くなく、落ち着いて自分のペースで回答を作っていくことが大事だと思います😊！
- 過去問（特に基礎能力試験）はできるだけ多く（古い年度のものや受験する区分以外のものも）解くといいと思います。
- 基本的に大学受験の延長線と思って対策をすることが大事かなと思います。苦手をなくし、満遍なく点数を取れるようにした上で、どこかしらを得点源にすることがコツだと思います。

#### 【二次試験】

- 論文や政策に関しては公務員の考え方を参考書などで学び、自分のものとして消化するのがいいと思います！
- 対策として、一度実践形式で面接や政策討議をやってみると、本番の緊張が少しほぐれるかなと思います！
- 政策討議については、新たなアイデアが思いつかない場合でも、発言していない人に積極的に意見を聞いたり、ある人の発言の意図を確認したりという役回りをするとうまく乗り切ることができると思います。
- 面接の練習は活かせるものは全て活かしてやることをオススメします。

#### 【一次・二次試験共通】

- 早めに勉強・対策を始めるのがよいと思います。

# 法律区分(大卒)

## 1. 勉強スケジュールなど



試験区分と大学・大学院で学んでいることの関係性：あり

試験対策の形態：公務員講座（大学生協）



試験区分と大学・大学院で学んでいることの関係性：なし

試験対策の形態：公務員講座（大学生協）

## 2. 勉強方法

### 【一次試験(専門択一)】

- 大学生協の問題集をとにかく回して知識を増強しました。
- 大学生協の公務員講座で配布されていた問題集（憲法、民法、行政法、ミクロ、マクロ、数的処理など）をメインに解いていました。特に法律科目は専門試験における配点が大いなので、4~5周くらいしたと思います。
- レベル的に届いていない教科は一般参考書で易しめのものを買って、基本を勉強しました。

- どの科目も解いた日付と正解不正解をメモしていました。また、なぜ間違ったのかをきちんと確認して、テキストなどにチェックをつけながら進めていました。
- 試験直前は過去問を7年分くらい解いたが、これが一番効果的だったように感じました。

### 【二次試験(専門筆記)】

- 大学生協のテキストで対策しました。憲法、行政法は出るテーマがほぼパターン化されていたので、とにかくやりこんでこういう問題が来たらこういう方向性で回答する、というのを染み込ませていきました。
- 憲法と行政法を選びましたが、生協講座の先生にどちらも型があるとお教えいただいたので、それを覚えるように意識しながら模範解答を書き写したり自分で書いてみたりしていました。

### 【二次試験(政策論文)】

- 大学生協の講座で対策しましたが、法律筆記に時間をとられてほとんど対策できませんでした。
- 一次試験が終わってから始めました。大まかな書き方を講座の先生に教えてもらって、自分で3回くらい書きました。それを添削してもらい、ブラッシュアップしていきました。

### 【二次試験(人事院面接)】

- 模擬面接を4,5回やって慣れました。人事院面接だったので、聞かれたことにしっかり答える、という基本的なところを徹底するようにしていました。
- 国家総合職を意識した面接対策は年明けから始めました。自己分析と平行してガクチカや志望動機を書いて、それを講座の方に添削してもらい、面接訓練に臨んでいました。試験前の1ヶ月は週1で面接訓練をしていたと思います。

### 3. 心構え・アドバイス

#### 【一次試験】

- 数的処理は出来るだけ早く始めて、自分が得意なのか苦手なのかを早めに把握しておくべきだと思います。
- 法律系の科目は一次試験の勉強が二次試験にも確実に生きてくると思います。

#### 【二次試験】

- 一次試験は正しいやり方で勉強すればきっと大丈夫なので、並行して人事院面接や官庁訪問対策を進めることが必要だと思います。

#### 【一次・二次試験共通】

- 勉強方法は、自分に合った方法がある程度把握できているならそれに従って進めていくべきだと思います。
- 公務員試験は科目が多くすべてを完璧に対策することは難しいと思うので、配点や苦手度を意識しながら、何の勉強をするべきか考えることが大事だと思います。

# 政治・国際・人文区分(大卒)

## 1. 勉強スケジュールなど



試験区分と大学・大学院で学んでいることの関係性：あり

試験対策の形態：公務員講座（大学生協）

## 2. 勉強方法

### 【一次試験】

- 数的処理は慣れが重要だと思ったので、短時間でも毎日取り組むことを意識しました。慣れてきたら、できないところだけひたすら何回も解きました。
- 専門科目は1週間に一回は全ての科目を触れることを意識しました。そのうえで、週ごとに特に一生懸命やる科目を1,2個作っていました。

### 【二次試験】

- 二次試験の勉強は一次試験後に始めたので、全く時間がありませんでした（反面教師にしてください）。開き直って、専門論文の勉強は得意科目2つに絞り、各科目1日に1,2個は予想問題を記述練習しました。（政治・国際・人文だったので、最悪の場合「公共政策」を2つ選択できる点が、科目を絞る余裕をくれました。）
- 面接は、大学のキャリアセンターで模擬面接をしました。考えを素直に話すことと、端的に話すことは強く意識しました。

### 3. 心構え・アドバイス

#### 【一次・二次試験共通】

- 勉強開始が遅くなってしまったので、一次合格までは周りよりも遅れているという危機感を持っていました。その一方で、本番までにできればいいという開き直りもありました。毎日努力を続けるうえで、適度な危機感と適度な開き直りは大事かなと思います。
- 得意科目が1つでも2つでもあると、気持ちに余裕ができます。(教養区分では難しいかもですが…) 興味のある学問に力を入れ、早めに得意科目を作っておくといいかなと思います。



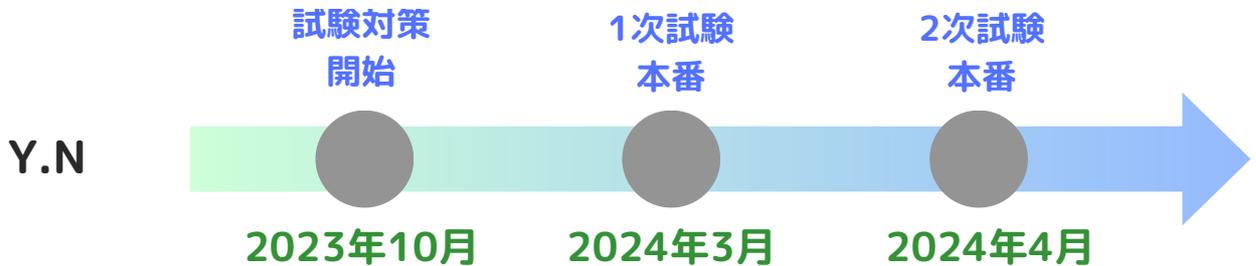
奈良県奈良市にて撮影



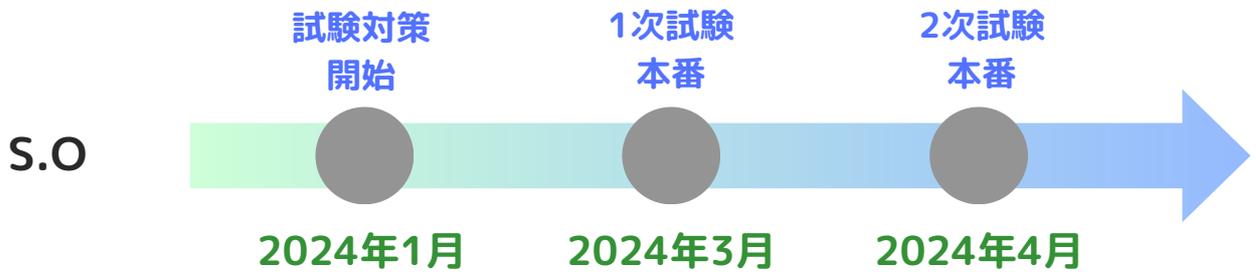
倉石岳国有林 蔵王の御釜にて撮影

# 行政区分(院卒)

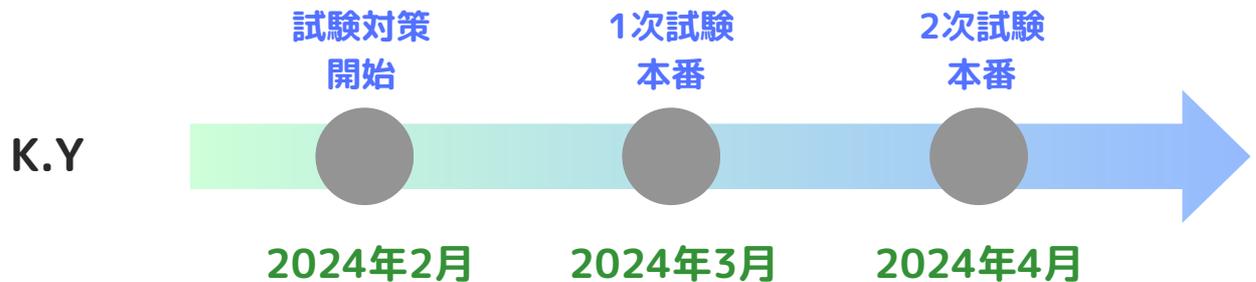
## 1. 勉強スケジュールなど



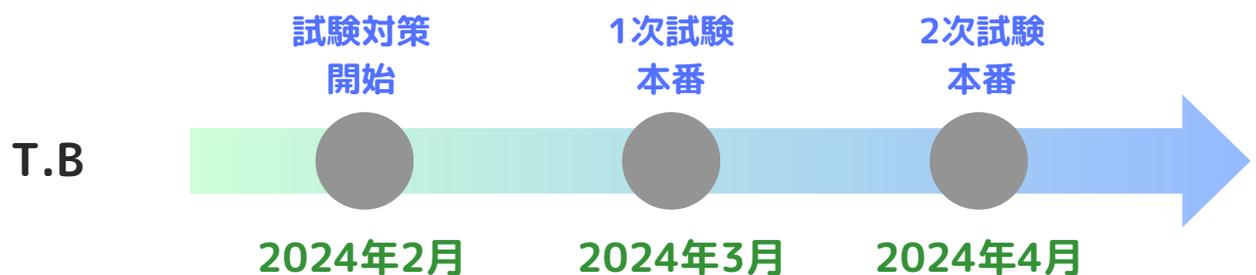
試験区分と大学・大学院で学んでいることの関連性：あり  
試験対策の形態：予備校



試験区分と大学・大学院で学んでいることの関連性：あり  
試験対策の形態：予備校



試験区分と大学・大学院で学んでいることの関連性：あり  
試験対策の形態：独学



試験区分と大学・大学院で学んでいることの関連性：あり  
試験対策の形態：独学

## 2. 勉強方法

### 【一次試験(専門択一)】

- 予備校の講義を聞いて問題集を解いていました。
- 予備校の模擬問題で勉強しました。
- 模擬試験で、言語はあまり点を落としていなかったのですが、数学系教科を勉強しました。
- 国家公務員試験対策用の問題集を書店で購入し、それを1~2周程度しました。時間が限られていたので、1周目はとりあえず全部の設問に取り組み、2周目はテキストで頻出だとされている部分に重点的に取り組む、という方式をとりました。
- 時間がなかったため教科を絞って勉強しました。
- 過去問を解いていました。

### 【二次試験(専門筆記)】

- 改めて予備校のテキストを詳しく勉強し直しました。実際にいくつかの過去問を解いて論述の記述の練習をしました。
- 関連書籍を読んでいました。
- 国際法では市販の問題集を使い、記述の練習をしました。公共政策では、過去問を数年分解いてみて、時間感覚や問題の感覚をつかむようにしておきました。

### 【二次試験(政策課題討議)】

- 民間のグループディスカッションの経験もあったので特にしていません。
- 同じ大学院の友人と集まり、グループディスカッションの練習をしました。

### 【二次試験(人事院面接)】

- 面接カードを予備校の講師にチェックしてもらいました。
- 面接カードの各項目の掘り下げを行いました。また、大学院の先生が主催してくださっている対策会に参加したり、個人的に友人にお願いをしたりして、面接練習をしてもらいました。
- 聞かれそうな問題の解答例を作って答えられるようにしておきました。

### 3. 心構え・アドバイス

#### 【一次試験】

- 早めに勉強を始めるに越したことはありませんが、試験が迫ってから準備を始めることになった方は、とりあえず頻出問題を中心に勉強してみると良いのかなと思います。

#### 【二次試験】

- 本番は鉛筆やシャープペンシルで解答を書くことになります。長時間、多くの文字を書くことに体を慣れさせるために、事前に何度か手で解答を書く練習をしておく方が良いかなと思います。
- 筆記試験の選択科目は公共政策A・公共政策Bがコスパがよいと感じました。
- 面接は面接カードの掘り下げが行われることになるかなと思います。しっかりと面接カードに書いた内容を自分の中で具体化して、回答できるように準備しておくが良いと思います。
- 面接や討議に関しては人と話す練習と分かりやすい説明の仕方の工夫に努めると良いと思います。
- 面接は一回以上は人に見てもらった方がいいと思います。

#### 【一次・二次試験共通】

- 院卒行政区分に関しては他の区分と比較して倍率が低いので、席次などを特に気にしないのであれば対策に時間を割きすぎないことが一番重要だと思います。
- 残された時間とやるべきことを適宜見極めて効率よくやることが大事だと思います。

# 失敗談

## 1. 一次試験

- 一次試験が終わった後の二次試験対策はやるべきこともガラッと変わって何をしたいかわからずに一歩目がかなり遅れてしまいました。早め早めがおすすです。（院卒）
- 数的処理の問題集を持っていたのですが、一通り終えることができないまま試験に臨んだ結果、試験本番で間違えた数問とほぼ同じ問題が問題集（の行き届かなかったページ）に載っていたことを後々知り非常に後悔した、という経験をしました。私のようにならないように、手持ちの問題集は少なくとも一周してから試験に臨むことをお勧めします。（教養）
- 数的処理の勉強が完全に足りておらず、本番でも問題が解けずにとっても焦ってしまいました。公務員試験の受験を少しでも考えているなら、数的処理については自主的に問題集を買うなどして早くから問題に慣れておくのが良いと思います。（教養）

## 2. 二次試験

- 面接カードでは環境分野に関心があるということを書いていたため、「環境分野でも特にやりたいことは何か」、「環境行政において重要なことは何か」、「環境行政に携わる中で守りたい公益とは何か」、「環境分野における行政の役割は何か」、など、面接官全員から志望動機について掘り下げられました。友人は面接カードにおける[志望動機]についてはほとんど質問されなかったと言っていたため、[これまでに取り組んだ活動や体験]を中心に準備をしていたのですが、実際の面接ではかなり志望動機について掘り下げられたため、面接中に焦ってしまいました。また、面接官が環境省

の職員の方であり、ヘマをするわけにはいかないと緊張して面接に臨むことになってしまったことも失敗談の一つです。（院卒）

- 試験3週間前で受験科目を変更することになりました。もっと早めに全ての教科の1周目だけでも早めに終わらせておくべきだったと思いました。（法律）

### 3. 一次・二次試験共通

- 一次試験も二次試験も勉強開始が遅くなりました、、早め早めに越したことはないと思うので、ちょっとずつでも始めることをおすすめします。また、勉強の合間に説明会等に参加して自分のやりたいことを考える機会を作ることも大事だと思いました。私は今年の4月に説明会初参加だったので、そこでも周りより遅れた意識がありました…（政治・国際・人文）
- 時間的な余裕が少なく、数的処理以外の知識分野にもっと時間をかけておけば安心だったかなと思いました。政策討議に関しても、実戦形式の練習をしておけばと思いました。（教養）

### 4. その他（試験以外）

- 勉強や対策の中で周囲と比べて自分の弱さに気づく瞬間があり、精神的に落ち込んでしまいました。自分を信じて頑張らしましょう。
- 試験当日に私服のコートを着ていたら周りの受験者がみんな就活っぽい黒いコートを着ていてびっくりしました。特に合否に関わるわけではありませんが、ちょっと浮いているかも、、と不安になりました。
- 特には思いつかないですが、強いて言うなら心配性がすぎて身のまわりの色々な人に相談しすぎたなと感じました。

# 学業・民間就活との両立のコツ

## 1. 学業との両立

- 学部3年前期は授業もとっていたので、そこまで力を入れて取り組んでいませんでした。夏休み以降から本格的に取り組み始めました。（法律）
- 長期休みを有効活用できたのが良かったかなと思います。教養区分は10月頭に一次試験があるので夏休みに時間をかけて対策をしました。二次試験は学業と重なって大変だったのですが、両立というよりはやるしかない！という感じでした。（教養）
- 3年の前期はとる授業を抑えました。（教養）
- 大学で学んだ知識がそのまま活用できることも少なくなかったので、学業と公務員試験を切り離さず、共通点や相違点を意識していました。私個人として大学の勉強が好きだったので、両方とも全力で取り組んだのが、結局いい方向になったと思います。（政治・国際・人文）
- 大学の授業で出される課題やレポートにしっかり取り組み、ある問題状況について調べ、それに対する解決策を自分なりに導き出すという思考を繰り返すことが、論文や政策討議、企画提案試験などに生きてくると思いました。（教養）
- 年齢的に、学業で忙しい期間と被らなかったのですが、やはり前もって時間に余裕のある段階から準備を進めておくことが大事だと思います。（教養）

## 2. 民間就活との両立

- 民間就活の経験は、面接や政策討議にいかせますし、自信にもつながると思うので、今何をすべきかを見極めながら両立していけばいいと思います。（院卒）
- 国家総合職の試験を教養区分で受けることをお勧めします！民間の本選考が本格化する1~4月頃に民間に力を注ぎ、民間がひと段落してから官庁訪問の準備を本格化させていくことができるからです。民間の選考の中でESを書いた経験や面接経験は官庁訪問でも必ず活かれます！（教養）
- 早めに民間就活を終わらせて、国家公務員試験対策に臨めるように意識しました。（院卒）

## 3. その他

- 他の作業との両立に関しては短期、中期、長期的なスケジュールをメモ用紙に書きだしてどうにかこなしていました。（院卒）
- 公務員専願だったので民間就活はできていませんでしたが、運動系のサークルには冬ごろまで力を入れて取り組んでいました。忙しくてつらいと感じることも多々ありましたが、サークルの友達と過ごす時間は大切にされたことですし、公務員試験の勉強から離れて息抜きをする時間が欲しかったので続けていました。そうして、結果的にはサークルのおかげで自身が成長できたと感じることも多く、ガクチカとして話すネタに困ることはなかったため、サークルに限らず勉強以外の活動には積極的に取り組み続けるといいのではないかと思います。あとは、私は色々な人と話すことが息抜きになっていたのですが、そういった自分なりの息抜きをすることも大切だと感じました。（法律）

# 官庁訪問



摩周湖（裏摩周展望台）にて撮影

# 官庁訪問とは

- 「国家公務員採用総合職試験合格＝内々定」ではありません。試験の最終合格後に、自身の志望官庁を訪問し複数回の面接を経たうえで、受験者と官庁のマッチングが成立すれば、晴れて内々定となります。この志望官庁を訪問するプロセスを「官庁訪問」と呼びます。
- 官庁訪問は、各官庁が受験者とのマッチングを行う場であると同時に、受験者が官庁に対する理解を深め、本当にやりたいことができる官庁を見極める場でもあります。また、受験者にとっては、様々な情報を得て成長できる貴重な機会にもなると思います。
- 官庁訪問では、一日に複数回面接が行われます。また、一日で訪問が完結することは基本的にはなく、約二週間にわたって実施されます。例年、クール制で実施され（2024年度は4クール）各クール内は毎日異なる官庁を訪問することになります。

※具体的な日程やクール、訪問方法は毎年変更されるので、最新情報は人事院のHPをご確認ください。

## 【参考】2024年度官庁訪問スケジュール

12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
第1クール			お休み		第2クール			第3クール		お休み		第4クール
最大3省庁まで訪問可能					最大3省庁まで訪問可能			最大2省庁まで訪問可能				内々定解禁！

- 訪問例：
- 6/12(水) 第1クール環境省
  - 6/13(木) 第1クールA省
  - 6/14(金) 第1クールB庁
  - 6/17(月) 第2クール環境省
  - 6/18(火) 第2クールA省
  - 6/19(水) 第2クールB庁
  - 6/20(木) 第3クール環境省
  - 6/21(金) 第3クールB庁
  - 6/24(月) 第4クール環境省 ←内々定！

# 面接の種類

官庁訪問では、主に「入口面接」「人事面接」「原課面接」「出口面接」の4種類の面接が行われます。それぞれの面接について、簡単に解説します！

## 1. 入口面接

各訪問日の最初に全員行います。基本的には、採用担当（人事）の職員の方と行います。志望動機の確認やガクチカを質問されることがあるほか、関心分野、その日話を聞いてみたいテーマ等についても質問があります。

## 2. 人事面接

採用担当（人事）の職員の方と行う面接です。質問内容は、国家公務員・環境省の志望動機、ガクチカや研究等のこれまでの経験、原課面接で学んだことについてなど、になります。また、国家公務員として、環境省の職員としてどういったことを実現したいか、といったような質問もあります。訪問者の人柄や雰囲気を含め、総合的なマッチング度を測るための面接なので、緊張しすぎず肩の力を抜いて臨むことが重要だと思います。

## 3. 原課面接

実際に職場に訪問したり、地方出向されている職員の方とオンライン接続するなどして、その職員の方のこれまでのキャリアや、現在携わっている業務内容についてお話を伺う形式の面接です。基本的な流れとしては、職員の方のお話を伺う→訪問者が質問を行う→時間が余れば、職員の方から訪問者カードに基づき簡単な質問が行われる、という流れになります。業務内容に対する理解を深めるとともに、実際の職場の雰囲気や、職員の方の人となりを知る良い機会となります。

## 4. 出口面接

訪問日の最後に行われる面接です。基本的には、採用担当（人事）の職員の方と行います。一日を通した感想や、評価の伝達、事務連絡等が行われます。

### 1日のスケジュール

時間	訪問先	内容
9:00～9:20	入口面接	志望動機や興味分野
10:00～11:30	原課面接 環境再生・資源循環局	除染など福島復興について
11:30～12:30	昼休憩	庁舎内のコンビニや食堂で昼食
12:30～13:00	人事面接	原課面接の感想やガクチカ
14:00～15:00	原課面接 自然環境局	鳥獣保護や法令審査について
15:30～16:00	人事面接	国家公務員（環境省）を目指す理由、理想の社会像など
16:30～18:00	原課面接 水・大気環境局	これまでのキャリアパスについて
19:00～19:15	出口面接	1日の感想、評価

時間や面接回数、内容等は人によって様々です。

入口面接で、興味のある政策や特に話を聞きたい分野を伝えることができ、その内容を基に原課面接でお会いできる職員の方が決まります。時には、年次の高い職員にお会いすることもあり、これまでのキャリアパスに基づいた興味深い話が聞けるとともに、将来の日本についてディスカッションをすることもあります。



# 官庁訪問に向けての対策

- **環境省のパンフレット・白書・環境基本計画を読む**
  - 環境省の目指す大まかな方向性やビジョンを理解しておくため。
- **説明会やワークショップ、職員訪問に参加する**
  - 内容をまとめたノートを作成し、後々読み返した。
  - イベントの中での質疑応答を通して、疑問点を解決するとともに環境問題に対する思考力を高めるため。
- **環境省が関わるテーマについての新聞記事、ニュースをチェックする**
  - 日頃から環境問題について考える機会を作るため。
- **大学での勉強会に参加する**
  - 良い情報共有の場となるため。
  - 同じ目標を持った人と話すことで、自己分析や志望動機の深堀に繋がるため。
- **面接対策（民間企業の面接、自己分析・志望動機作成）**
  - 民間企業の面接と官庁訪問は性質を異にするが、志望動機や自己PRを伝える力は確実に向上した。
  - 自己分析を基に、自分がどういった人間か、何のために働きたいのかを言語化した。
  - 訪問者カードや「内定者の声」を基に想定問答を作成した。
  - 興味のある分野を中心に逆質問を事前に準備しておいた。

## 参考にしたもののランキング



1位  
予備校or大学の  
官庁訪問体験記  
(6人)

---



2位  
「内定者の声」  
(5人)

---



3位  
説明会のメモ、  
配布資料  
(4人)

---

### 【その他】

- ・ 予備校講師、教授からのアドバイス (3人)
- ・ 予備校での配布資料 (2人)
- ・ 友人からのアドバイス、情報 (2人)
- ・ 大学のキャリアセンターの説明会 (1人)

# 面接で聞かれたこと

## 1. 人事面接

- なぜ国家公務員を志望するのか？
- なぜ環境省を志望するのか？
- 行政官として、国家公務員として、大事にしたいことは何か？
- 環境に興味を持ったきっかけ
- 学生時代に力を入れたこと（ガクチカ）
- 他省庁併願の軸や、民間企業の併願理由について
- 人間関係の中で大事にしていることは何か？
- 困難に直面した経緯と、それにどう対応したか？
- 意見の異なる人や境遇の異なる人と関わる際、どういったことを意識するか？
- その日の原課面接の感想や、考えたことについて

## 2. 原課面接

- なぜ環境省を志望するのか？
- 関心のある政策・分野について
- 学生時代に力を入れたこと（ガクチカ）
- 大学・大学院での勉強・研究内容について
- 併願訪問官庁について
- ある政策に関してどう思うか？自分ならどういった解決策を考えるか？
- 官庁訪問の中で新たに興味を持った分野について
- 逆質問をした

質問内容に関しては、人事面接と原課面接で大差はないかと思います！

# 待合室

## 1. 待合室の過ごし方

- 直前の面接の内容を振り返り、メモにまとめ直していた。また、面接を通じて考えたことをメモ等で言語化し、次回以降の面接で言葉にできるように準備していた。
- 面接の内容で分かりにくかったことや、初めて知ったことをインターネットで調べるなどして知識を深めるようにした。
- 同席した他の訪問者と会話していた。良いリフレッシュになった。
- 時間があるときはコンビニで購入した軽食や飲み物をとって栄養補給していた。長丁場になるので適度な食事は大事だと思う。
- 職員の方が話しかけてくださるタイミングがあるので、その際は積極的にコミュニケーションを図り、職員の方の人となりや雰囲気を出来るだけ把握しようと努めた。

## 2. 待合室の雰囲気

- 他省庁と比べ環境省は和気あいあいとした雰囲気だったと思う。
- 第1クールはやや緊張感が漂っていた。
- 時間が経過するにつれ他の訪問者との会話も増えていった。

**全体的に他の訪問者とコミュニケーションを取っていたという人が多いです！**

# 当日の持ち物・服装

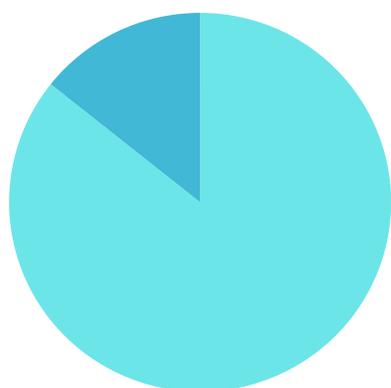
## 1. 役に立った持ち物

- 自分の読みたいor好きな本
- ノート（小さなメモ帳ではなく）
- 昼食（買いに行くこともできるが、事前に持っている余裕ができる）
- お菓子（甘いもの、辛いもの、酸っぱい物）
- 暑さ対策グッズ（扇子、ハンディーファン、汗拭きシート）
- クリアファイル
- 就活カバンとは別の小さなバッグ
- 歯磨きセット
- ミントタブレット
- マイボトル
- 名刺入れ
- モバイル充電器

## 2. 服装・カバン

### 服装（男性）

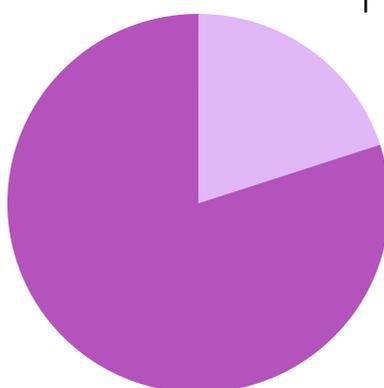
フォーマル  
1



クールビズ  
6

### 服装（女性）

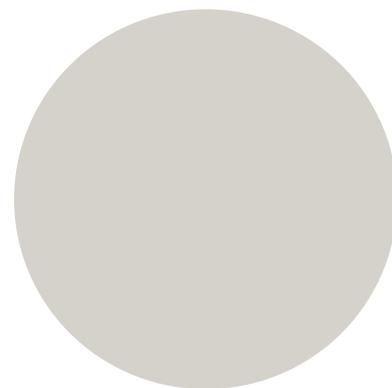
クールビズ  
1



フォーマル  
4

### カバン

ビジネスバッグ  
12



## 休日の過ごし方

- それまでの官庁訪問の内容を改めて振り返り、思考の整理・言語化や、追加で想定問答や逆質問を作成する時間をとった。
- 対策について考える時間と、官庁訪問について一切考えない時間の両方を用意した。
- 大学の授業に出席していた。
- 東京観光をしたり、友人と出かけたりした。
- 家やホテルでリラックスしていた。
- 他の公務員試験（地方上級試験）などの受験があった。

## 全体を通して意識したこと

- 面接官の目を見ながら、ゆっくりはっきり簡潔に話す。
- 見栄を張らず背伸びせず、ありのままの自分で臨む。自分の素を出せるように。
- 熱意をまっすぐに伝える。
- 気になったこと、分からないことはそのままにせず質問する。
- 相槌を打つ、笑顔を意識する。
- 最低限の思考の整理はした上で、緊張しすぎず、準備しすぎず（考えすぎない）、楽しむ意識を。
- 楽しく面接を終えることを目標にした。

**就職活動はマッチングの場であり、背伸びせずありのままの自分で臨む、ということを意識していた人が多いです！**

# 官庁訪問を振り返って

## 1. 良かった点

- 準備をしすぎなかったこと、楽観的だったことが功を奏した。
- 原課面接に楽しんで臨めた。
- 自分を偽ることなくありのままの自分で臨めた。
- 職員さんの雰囲気、仕事に対する考えを理解しつつ、それに対して自分がどれくらい合っているかを分析できた。
- 環境行政に関する問題意識やこれまでの経験・知識などを紐づけて質問をしたり、自分の意見を言ったりすることができた。
- 環境省で働き、どういう社会にしたいか、どう社会に貢献したいかという思いがしっかり伝えられた。
- 必要以上に一喜一憂しなかった（訪問者同士で噂も飛び交うが、気にしなくてよかった）。

自然体でいつも通りの自分を出したという方が多いです。ありのままの自分で楽しむという意識が鍵になると思います！

## 2. 反省点

- 他の省庁の説明会に参加し始めるタイミングが遅かった。
- 官庁訪問の前月に民間就活が一区切りついでから、燃え尽き状態になってしまい官庁訪問の準備が遅れてしまった。
- 気負いすぎて固くなってしまったり、緊張していると相手に伝わったりしてしまった。
- 自分だったらどうするかを言語化できるまでに時間がかかった。
- 「国家公務員としてなにを成し遂げたいか」という問いへの準備が十分でなかった。
- 周囲の人と情報共有をしなかった。
- 他省庁に落ちた後、気持ちを切り替えられず、ずっと引きずってしまった。

準備の遅れや切り替えの難しさを感じた方が多いようです…

### 3. 評価されたと思う点

- 純粹に人と話すのが好きなところ
- アルバイトやサークルで培った人と会話する体力みたいなもの
- 環境省と他省庁の違いを明確にしたうえで、「なぜ環境省で働きたいか」「どう環境省のアプローチで行政に携わりたいか」を明確にできた点
- 志望動機をどのような角度から深掘されても、自分の考えを話せたところ
- 突拍子のない質問をするのではなく、会話の流れを常に意識して、職員の方のお話の中で気になったことを聞いたこと
- 公共に資する仕事がしたい、社会から取り残されてしまいがちな人や、社会の負の側面により被害を受けてしまった人に寄り添った仕事がしたいという熱意
- とにかく質問にははっきりと、明確に答えられていたこと
- 官庁訪問を通じての成長
- 志望動機を過去の体験と絡めながら自分の言葉で話したこと
- 知的好奇心の強さ
- 環境関係に関わらず、ふだんから様々な事象について考察している性格

**長所が評価されたと感じている方が多いです。やはり素直かつ自然体でいることは大事になりそうですね！**

# 座談会



旧士幌線タウシュベツ川橋梁跡（北海道上士幌町めかびら源泉郷）にて撮影

## 環境省への“好き”を語る！

### ✓ 座談会とは

こちらは、内定者がテーマに沿ってトークを繰り広げていくコーナーです。今回は「環境省への“好き”を語る！」という大テーマのもと、内定者らが内定をもらうまでの軌跡とこれからへの想いを4つの小テーマに分けてお話ししております。現時点でまだ環境省についてあまり知らない方、環境省についてもっと知りたい方、環境省の官庁訪問に行くか迷っている方、環境省を強く志望している方など、様々な方が環境省の魅力を知ったり、入省に向けた歩みを進めたりするための一助になればと思います！

次ページ以降の座談会では、S（司会）のほか、各パート異なる内定者A,B,Cによるざっくばらんなトークが繰り広げられています。是非、内定者らの「声」をお楽しみください！

### ✓ 座談会の内容



Part1：きっかけについて



Part2：訪問カードについて



Part3：官庁訪問について



Part4：これからについて

# Part1：きっかけについて

## Q. 環境省を知ったきっかけ

S：まずは、**環境省のことを知ったきっかけ**について聞かせてほしいんだけどどうかな？

A：自分はそんなに前から環境省を見ていたわけではないよね。

S：Aさんは官庁訪問でも環境省は3日目に回ってたもんね。

A：そうそう。他の省庁も見ながらどこを訪問しようかなと考えていたときに、内閣官房人事局の「国家公務員キャリアガイド」というサイトで環境省のことを知った感じかな。自然環境分野に関心があったんだけど**分野ごとに省庁を絞れて便利**だったよ。

S：たしかに**入り口としては、Aさんみたいに他の省庁も見て、あとどこに訪問しようかと考えている段階で環境省が選択肢に入ってくる人も多い印象**があるね。Bさんは？

B：自分は環境省のことを知ったきっかけとなるとかなりさかのぼるかな。それこそもう幼稚園の時くらい。そこでの催しでCO<sub>2</sub>を減らすダンスを踊るっていうのがあって。その時に**気候変動の問題に初めて興味**を持ったって感じかな。

S：ふむふむ。

B：それから、具体的な進路として環境省について考え始めたのは、大学院の時だと思う。学部時代は全然違う分野を学んでたし。**大学院の講義**の中で環境省から来られた講師の方からプラスチック資源循環について学んだことをきっかけに本格的に環境省に関心を持ったって感じかな。

S：なるほど。**環境問題は普段の生活の中でも耳にする身近な問題**だし、大学の講義でも環境に関する講義はあるだろうから、そこが入口になる人もいそうだね。そういう意味で**環境省のことを知る入り口は広い**と考えることもできそうだね。

## Q. 環境省のイベントについて

S：**環境省のイベント**には参加した？

A：自分は**官庁訪問直前にオンラインのイベント**にいくつか参加したくらいかな。行こうと思ったきっかけとしても官庁訪問に向けて**雰囲気**がわかればいいなって感じ。環境省は直前まで初めての**人向け説明会**をやってくれたから**気持ち的に行きやすくて助かった**。

S：うんうん。たしかに**直前に訪問カードの材料集めとして参加する人も多い**だろうね。Bさんはたしかインターンとかにも参加してたんだっけ？

B：自分は**夏に開催された霞が関インターン**に参加したよ。内容としては東京の本省で職員さんが付き切りの状態で**普段の業務**を体験させてもらうって感じ。そこで**具体的に働くイメージを形成できたことが自分の環境省を志望する気持ちに大きく関わった**し、今も昨日のここのように思い出せる**貴重な経験**だったかな。

S：職員さんの**雰囲気**はどんな感じだった？

- B：ほんとに皆さん和気あいあいとしながらもやることもきちんとこなされてて、**チームとして仕事をしていることが印象的**だったよ。
- S：そうだね。夏のインターンみたいに何日も参加するイベントだと、同じような境遇の友達もできるし、帰属意識(?)が刺激されて、志望度上がるのめっちゃくちゃ共感できるわ。自分の居場所はここだ！的な。その意味でも環境省に限らずほんとに**いろんなイベントに参加してみるのがよさそう**だね。
- A：行って見て初めて分かることは多いよね。

## Q. イベントで印象的だったこと

- S：参加した**イベントで印象的だったこと**はある？
- A：自分は他の省庁と悩んでいたんだけど、たまたま若手の職員さんが学生時代に同じような悩み方をされていたみたいで。そこでの「**環境に正面から取り組むことができるのは環境省**」というお話が自分の中での重要な判断の基準になったというのはあるかな。
- S：なるほどね。Bさんはどうかな？
- B：自分はインターンも説明会もいろいろ参加したんだけど、その中で規制色の強い方、促進色の強い方、国際色の強い方などほんとにいろいろな分野の方のお話を聞いたことがよかったかな。それで**環境省が総合職事務系として分野横断的に活躍できる省庁**だと感じたことが最終的には自分の志望度に影響を与えたと思う。
- S：2人ともありがとう。自分も説明会で職員さんから強調されたことだけど、環境省はまだ他の省庁と比べると歴史が浅い分、**環境という様々な分野にまたがる大きな問題に対して柔軟性をもって真正面から取り組むことのできる強み**があるよね。

## Q. イベントに参加するハードル

- S：こうした**イベントに参加する上でしんどかったこと**とかある？
- A：自分はオンラインでの説明会がメインだったので、**参加する上でそこまでハードルを感じたことはない**かな。質問も絶対にしなくちゃいけないって雰囲気でもないし。
- S：たしかに質問に関しては、ほんとに気になったら質問すればいい雰囲気だよな。自分は説明会の他に座談会も参加したけど、そこでも「いい質問をしなくちゃいけない」って感じではなくて、むしろ**職員さんとの会話を楽しむという意味合いの方が大きかった**気がするね。いずれにせよ「**質問しなきゃいけない**」って重く考えて**イベントに参加しないのはなんかもったいない**かもな。Bさんはインターンに参加する上で何かハードルはあった？
- B：個人的な話になるけど、インターンが東京で5日間開催された関係で地方住みの自分には**金銭面での負担**がかなり大きかったかな。
- S：地方組にとっての金銭面でのハードルは官庁訪問と同じだね…。
- B：ただ、このインターンでの東京のホテルを取って本省に通うという経験が**最終的に官庁訪問に活きた**という点はよかったかな。大変だったけど。

## Q. 2人からのメッセージ

S: そしたら最後に、これから環境省を見てみようかなと思っている方に向けて一言ずつメッセージをもらってもいいかな？

A: 自分から言えることとして、インターンなどで長く関係性をもっている人もいる一方で、**自分みたいに直前になって環境省を見ている人もいる**ことをまず知ってほしいです。そのうえで、環境省でやりたいことを自分の中で見つけれられるのなら大丈夫だと思います。なので、「**今から説明会に参加しても大丈夫かな**」などと**考えずに気軽に**参加してみたらいいと思います。

S: Aさんありがとう。そしたらBさんから一言お願いします。

B: 個人的には、環境省って**イベントに参加するハードルが低く**て評価とかもビシバシやるような省庁ではないと思ってるんだよね。だからこそ、どのイベントも「**聞きたいことを何でも聞いてください**」というスタイルで職員さんと楽しく話せるイベントになっていると思うし。なので、ほんとに**小さなことでもいいから聞きたいことは何でも聞いて働くイメージをより明確**にしていくといいのかなと思います。

S: それでは座談会Part 1は以上です。

A,B,S: ありがとうございました！



北海道士幌町にて撮影



屋久島にて撮影

## Part2：訪問カードについて

### Q. 「志望動機」について

- S：ここでは、訪問カードに沿った形で話を進めていくね。じゃあ、初めに志望動機について聞かれていたと思うんだけど、意識したこととかはあるかな？じゃあ、Aさんから。
- A：そうだね。まあ、意識したこととしては説明会での職員さんのお話を通じて感じたことと自分自身の経験をうまく紐づけられるようにしたことかな。
- S：なるほど。Aさんは説明会を通じて環境省についてどんなことを感じたの？
- A：例えば、環境問題に対してどの省庁においても広く取り組まれている中で、**分野横断的にその旗振り役を担うことが環境省の役割であること**だとか、あるいは**理想主義的に「環境が大事である」とただ言ってるだけではダメで、いかに地に足を付けて具体的に進めていくかが大事だ**ということとかかな。
- S：たしかに自分の考えと同じくらい、環境省(の職員の方々)がどのようなことを考えているかを知ること重要だよな。**志望動機ってそこをうまく繋げる作業**な気がする。Bさんはどうかな？
- B：自分は恥ずかしながら**1回も説明会に参加したことがない**んだよな…
- S：え、そうなんだ…！
- B：うん、だから環境省が何をしています、何をを目指しているのかを**白書で知った**んだ。それで、関心のある環境分野について自分の体験を交えて志望動機を書いたって感じかな。この政策についても**もし自分だったらこういう風に考えて、こんな貢献ができるかなとか考えてた**ね。
- S：なるほどね。自分は白書を読めていなかったな(笑)
- A：自分も関心がある分野について軽く読んだくらいかな。説明会とかでも**白書を読み込むことが重要なのではない**という話をされていた気がする。
- S：たしかに白書は網羅的に書かれているから**環境省が何をしているかを知るという意味では有用**かもしれないけど、なにせ分量が多いから**「読まなきゃ…！」って神経質になる必要はない**気がするね。自分の中で**咀**できないと意味ないし。Cさんはどう？
- C：自分は**原体験をもとに志望動機を練っていった**感じかな。具体的には、地元で豪雨災害が頻発した話だったり、ゴミ処理施設を見学した際に循環型社会に問題意識を持った話だったりかな。
- S：なるほどね。志望動機でなかなか原体験がなくて悩んだりする人もいるけど、Cさんの例のように**環境問題は身近な問題でもある**から身の回りの生活を意識するだけでもなにか環境省に繋がられるきっかけが見つかるかもしれないね。ありがとう。
- S：自分は志望動機を書く上で、**パンフレットで自分の気に入る言葉を探す作業**が意外と役に立ちました！例えば、「環境という価値を確立する」とかですね。ご参考までに！

## Q. 「これまでの人生で、あなたが一回り成長できたなと感じること」について

- S：訪問カードでは、志望動機の次に、これまでの人生での体験について聞かれていたね。いわゆる「ガクチカ」みたいな感じなんだろうけど。書く上で意識したこととかある？
- B：自分は大学の部活での話を書いたよ。実際に国家公務員として働いた時にも起こりそうなトラブルについてどのように解決したかを書いたって感じかな。
- S：書いた内容をブラッシュアップするうえでやったこととかある？
- B：友達に見てもらったこともあるけど、自分は本当に特殊で第1クールの3日目に突然環境省に訪問カードを出した人なので（笑）あまり時間がなかったというのが実情かな。だから自分で何回も何回も文章を書き直してブラッシュアップしたり、聞かれそうなことへの回答を考える中で自分の言葉をまとめていったよ。
- S：自分も前もって書こうと思ってたのに、試験勉強とかで手が回らず結局徹夜で仕上げた（笑）。それに3日とも訪問する人は訪問カードも3つ書くってめちゃくちゃ大変だよな…。
- A：自分は民間就活もしていたから、いわゆる「ガクチカ」にあたる部分は民間就活のものをそのまま使っていたかな。
- S：面接経験の豊富さとかも含め、民間就活していた人はそういう強さもあるね。
- A：そうだね。そのうえで、Bさんも言ってたけど、仕事をするうえで何が必要になってくるのかなという視点は意識していたかな。自分は調整力の話をしたんだけど。
- S：たしかに志望動機と同様に、ここでも自分の体験が国家公務員であったり、環境省職員としてどのように活かせるのかという視点は重要そうだね。
- A：あと苦労したこととしては文字数に関する事で…
- S：環境省の訪問カードではだいたいどの設問も500文字程度だったね。
- A：そうそう。だから自分は前提条件となるサークル活動の基本的な説明をどう簡潔に書くかに苦労したかな…
- C：民間就活の「ガクチカ」を使う話があったけど、自分は人事院面接の面接カードに書いた内容を少し分量を増やして書いた記憶があるかな。
- S：自分も言われてみればそうかも。「これまで取り組んだ活動や体験」を聞かれたもんね。
- C：うんうん。自分は地域活性化のプランを自治体に提案する大学のプログラムに参加した時の話を書いたよ。その経験を通じてリーダーシップやコミュニケーションの重要性を学んだって感じの内容かな。
- S：なるほどね。自分も実はリーダーシップの話をしたから一緒だね。こうしてみると、経験から得られた「リーダーシップ」や「コミュニケーション力」、「調整力」に関する話を国家公務員に求められそうな能力として持ってきてる人も多そうだね。

## Q. 「関心のある政策分野」について

- S：自分は何気にこの設問の回答に悩んだんだよね…というの、**官庁訪問の入口面接**でほぼ確実に聞かれる内容なわけで。どの程度、幅を持たせた回答にするかで悩んだ記憶があるな。
- C：自分は**温暖化対策、地域脱炭素、資源循環、海洋プラスチック対策、福島復興・再生**って書いたよ。入口面接でも同じような感じで答えたかな。
- S：Cさんはけっこう広く書いたんだね。Aさんは？
- A：自分も広く書いた方だと思う。**生物多様性、気候変動対策**みたいな感じで粒度としても局レベルで広く書いたかな。
- S：なるほどね。
- A：ただ、**生物多様性**が自分の中では1番やりたい軸としてあって、入口面接ではそのことを伝えたよ。でも、一部の政策にしか興味がない人だと思われたくないし、実際に自分はそうではなかったのでものが伝わるように注意は払ったかな。
- S：どの政策分野も重要なだけに、自分の関心といわれるとやっぱり難しいよね。**官庁訪問中の原課面接でも「興味のある環境政策の分野」の職員さん**だけに回されるわけではないと思うから、Aさんが言ってくれたように入口面接できちんと自分の言葉で**関心の濃淡**だったりその背景にある物語を話せるようにすることが大切かもしれないね。

## Q. 訪問カードを書いている人へのメッセージ

- S：じゃあ、最後に。これは想像だけど**訪問カード**を書いている段階でこの「**内定者の声**」を参考にしている人も多いと思うんだよね。その方々に向けてメッセージをお願いします。
- C：**早めに書くことが重要**だと思います。自分の反省として、5月末くらいから書き始めてかなりギリギリになってしまったので、**早めに訪問カードで聞かれる内容を確認**して早い段階からなんとなくでも考えておくことが重要なんじゃないかなと。
- B：**環境省職員になった自分の姿を想像して、実際に自分の経験がどのように活かせるのか、どう動きたいのか**といったことを考えると書きやすいんじゃないかと個人的には思います。
- A：小手先でよく見せようとか、受けがいいんじゃないかみたいなことを考えるよりも、**自分の本当の想いみたいなものを考えて書いた方が伝わるものも伝わるし**、面接していても緊張しないで自然体でいられていいんじゃないかなと思います。
- S：「**背伸びしない**」ということは内定者がみんな口をそろえて重要だって言ってるね。
- A：そうそう。「**素の自分を出してほしい**」って人事の偉い人からも言われたし。
- S：そしたらこれでPart 2の座談会を終了します。
- A,B,C,S：ありがとうございました！

## Part3：官庁訪問について

### Q. 官庁訪問への期待

- S：官庁訪問でこんな話が聞きたいなとか考えてたことってあるかな？Aさんどうだろう。
- A：自分は**地域脱炭素**をもとにしたまちづくりにもともと**興味**があったからその分野の話はぜひ聞いてみたいと思ってたかな。入口面接でもそう伝えてた。
- S：なるほどね。Bさんはどう？
- B：自分は大きく分けて2つあって。1つ目は**国際系の業務**について**興味**があったので、国際交渉とか、環境の開発協力の業務に携わられた職員さんのお話は聞きたいと思ってたね。
- S：Bさんは国際系の業務に関心があるんだね。**内定者の中でもAさんや、自分もそうなんだけど、地域での環境政策に関心が強い人と、Bさんみたいに国際系の業務に関心が強い人がいるのが個人的に面白い**と思ってるんだよね。
- B：そうだね。それで、2つ目に聞いてみたいと思っていたのは水俣行政や福島を除染作業のお話だね。実際に携わっている職員さんの心持ちなどを聞きたいなって思ったんだ。
- S：あ、それは自分も同じだ。環境省のコア・ミッションの「**不変の原点の追及**」っていう言葉で表されたりするけど、創設当初の水俣行政から貫いてる「**誰かがやらないといけないことをやる**」という姿勢はほんとに重要だと思うんだよね。
- C：参加遅れちゃってごめん…！汗
- S：あ、Cさんお疲れ！大学卒業は大丈夫そう？（笑）
- C：まあ、なんとか…

### Q. 印象に残った職員さんのお話

- S：じゃあ、ここからはCさんも交えて官庁訪問の中身の話に入っていこうか。官庁訪問を通じてほんとに色々な人の話を聞いたと思うんだけど**印象に残ったお話**はあるかな。
- A：自分の場合は、**関心のある地域脱炭素分野の課長の方のお話が印象的**だったかな。知識としては脱炭素先行地域とか全国にいろんな事例があるのは知っていたんだけど、**具体的な内情まで知れたのは興味深かった**な。
- S：ふむふむ。地域脱炭素について以前から関心があったとのことだったけど、自分で調べるのと実際に業務に携わられている職員の方にお話を聞くのではやっぱり違うものかな？
- A：そうだね。もちろんそんなこともやってるんだ！みたいなお話も沢山あるんだけど。特に、**どういう経緯でその取り組みに至ったかとか、この先こんなことを目指したい**というような、**試行錯誤の末の職員さんの苦労や想いが伝わってくるお話**はやっぱり実際に聞かないと分からないね。

- S：それは自分も分かるかもしれない。やっぱりWeb上資料などからは網羅的に何をしているかある程度把握できるんだけど。その裏にある**政策担当者の想い**とか**実際に政策の影響を受ける人の表情**みたいな部分はなかなか知れないもんね。
- B：その意味では**自分も政策の中身よりも政策に携わる職員さんの想い**が印象的だったかな。
- S：どんな話だったの？
- B：自分も地域脱炭素に関わっている職員さんのお話なんだけど、理想の社会像について伺った時の、「**自分の中ではあえて理想の社会を設定しないようにしている**」という**答えがすごく印象的だった**んだよね。
- S：それは意外な返答だね…！公務員として働くうえでどのような社会や未来を実現したいのかは面接などでもよく聞かれる質問だもんね。
- B：そうそう。その言葉の真意としては、**その自治体の職員の方や住民の方が実現したい社会こそが理想の社会像だ**と考えているみたいで。その**現場に寄り添う姿勢**が自分の中でほんとに勉強になったよ。…なんだか秘書課面接受けてるみたいだわ（笑）
- S：固くなっちゃってごめん！（笑）でも、自分も秘書課長から言われた言葉で、「環境省は**ニーズオリエンテッド**で取り組んでいる」って言葉が印象的だったな。他の座談会パートで環境省の仕事の柔軟性の話が出ていた通り、課題を抱えている人・組織の立場に立って**ニーズオリエンテッド**でその課題解決に柔軟に取り組んでいくという環境省のスタイルにめちゃくちゃ共感したんだよね。
- C：自分は官庁訪問を通じて環境省のやっていることの幅広さを改めて実感したことが印象的だったかな。例えば、熱中症のお話とか。
- S：それはほんとにそう。いろんな職員さんからお話がきけるし1人1人の職員さんもキャリアの中でいろんな経験をされているから**聞ける話の幅がとんでもなく広い**んだよね。
- C：さらにその中でも**いろんな省庁と連携してできることはなんでもやっている**んだよね。どの政策を切り取っても省庁間の垣根を越えて連携したうえでよりよい社会を目指して取り組んでいるんだなというのがほんとに勉強になったところだね。

## Q. 官庁訪問を通じた変化・決め手

- S：そしたら、次はそうした職員さんのお話を受けて皆さんの中で起こった変化について聞かせてほしいな。最終的には環境省を選んだわけだけどその決め手とか。Aさんどう？
- A：官庁訪問を通じて、**地域に寄り添って考えているんだな**というのを感じたかな。あと、決め手としては**職員さんの人柄**が大きかった気がするかな。
- S：たしかに職員さんの話を聞いていても、**最終的には官庁訪問でお話しした職員の方々の人柄が決め手だった**という人も多いね。どういうところで人柄を感じたの？
- A：そうだな、自分は原課面接でディスカッションみたいな構図になることが多かったんだけど。そこで、向こうは政策のプロであるにもかかわらず、**ただの学生である自分の言葉の1つ1つを尊重して真摯に向き合ってくれている**な感じたことが嬉しかったかな。

- S：なるほど。自分ももっと話したい！みたいな感覚はあったかもしれない。Bさんはどう？
- B：自分も**決め手として人柄に かれたという面はあった**かもしれないね。水俣行政に関わった職員さんのお話を聞いていても、**2～3年をただのジョブ・ローテーションとして職務を全うするだけでなく、長い目でみて現地の人に寄り添っていく姿勢**に環境省職員の組織としての人柄が表れているなと感じたな。
- S：自分が水俣や福島を担当を外れてもプライベートで現地を訪れる人もいるらしいね。それだけ**人との繋がりを重視する組織風土**みたいなものが根付いているのかもしれないね。
- C：自分も官庁訪問を通じて感じたところとして、環境省の職員もそうなんだけど、**環境省の職員が仕事に関わる人達**のお話を聞いていても**一緒に働きたいと思えた**んだよね。
- S：それも重要な視点だね。
- C：そうそう。あとはマッチング的な意味で、くさいことを言うと「**運命**」的なものを感じたっていうのも自分の中での決め手なんだよね。言葉にするのが難しいけど。
- S：「官庁訪問は縁だ」とか「官庁訪問は相性だ」みたいなこともよく言われるけど今のCさんのお話はまさにそんな感じだね。自分の中でビビッと来る感覚はわかる気がする。

## Q. これから官庁訪問に行く人へのメッセージ

- S：最後に、これから官庁訪問に行く人へのメッセージを一言ずつもらってもいいかな。
- A：自分は民間就活もしていたんだけど、官庁訪問にしろ民間就活にしろ求められるものは近いんじゃないかなと思ってます。つまり、**自分の気持ちや想いをうまく言語化して伝えられるのか**は大事だと思います。あと、職員さんも人間なので、**一緒に働きたいと思ってもらえるかが重要**なんじゃないかなと思います。その意味では、白書をごりごり読んで知識を蓄えることよりも**コミュニケーションを意識した対策**がいいんじゃないかなと思います。
- B：自分も似たような感じなのですが、**自分が率直に語れる言葉を大事にする**といいなと思いました。どうしても自分をよく見せようとしがちですが、**自分がそれまで考えてきたものや大切にしている考えなど自分の中から出てくる言葉を飾らず伝えて**、それで採用されたらラッキーくらいに考えておくのがほんとの意味でのマッチングなんじゃないかな。自分の場合の官庁訪問は疲れ果てていて飾る余裕もなかった感じでしたが（笑）
- C：マッチするというのは自分も感じたところです。**自分の考えていることと志望する省庁が考えていることを比較して違いを見出すことが重要**な気がします。その違いに対して無理やり自分を曲げるのではなく、自分の納得のいくバランスをとることが大切かなと。
- S：以上で座談会Part 3は終わりです！
- A,B,C,S：ありがとうございました！

## Part4：これからについて

### Q. 就活を終えて

S：就活を終えて今どんな感じ？

A：来年の今頃は霞が関で働いてるのかと思うとイメージがまだついてないというのが本音かな。**就職**っていう1つの大きい境を迎えてやっていけんのか少し不安かも…。

S：一応ね、採用チームから「**働き始めるまでは残りの学生生活を思う存分楽しんでほしい**」って言われているから。不安な気持ちもあるけど楽しむのが今の自分たちの仕事だよな。

B：自分は官庁訪問の前に民間の就活もしてて、ほんとにバタバタで心も落ち着かなかったから、無事に第一志望から内々定がでた**安心の気持ちが一番大きい**かな。だから、今は残りの学生生活を楽しもうって気持ちだね。

C：自分はずっと関西だったから来年から東京にいかなくちゃいけないって気持ちとまだ戦ってる感じかな（笑）でも、それを除くと仕事を選ぶという意味ではいい選択だったんじゃないかと振り返っているかな。まだ働いてないけど。

S：環境省を選んだことはいい選択だった？

C：働くうえで**自分のやってることが社会に大きな意味をもってる**という意識は自分が**頑張るための糧になる**気がしてて。その意味で働くことに関しては不安よりも楽しみの方が大きいかもしれないな。

S：お手本のような内定者だ…！Cさん最近なにしてるの？

C：論文書かなあかんって気持ちと書きたくない気持ちで焦ってる…（笑）あとお金がないからバイトするわ。

S：春休みにでも内定者みんなで行きたいね。

C：行こ行こ。

### Q. 働く上での将来像

S：上の通り、皆さん春から働くにあたって不安や希望でいっぱいだと思うけど、環境省職員として**将来こんな風になりたい**とか**こんな風に社会に貢献したい**とかある？

A：自分はどの進路であったとしても**地域活性化に携われる**といいなって思ってたんだよね。だから、環境省職員として**実際に現場を見てきて考えたい**っていうのはあるかな。というのも行ってみなきゃ分からないことがあるっていうのもそうだし、**国家公務員**なんだけど**地域の一員**として働けたらそれが理想かなっていうのは思ってる。

S：その働き方をしたいなと思うきっかけになるお話とかはあったの？

A：官庁訪問の秘書課面接でさっき言ったような働き方がしたいって伝えたら、「**2.5人称**」って言葉を教えてくれてそれが印象的だったかな。最初に言ったのは柳田

国男さんだったらいいんだけど、**行政官としての2. 5人称**というお話をしてくださって。具体的には、私とあなたの2人称くらい現場に近く、一方で、3人称的な視点から冷静に判断して政策を実行していくっていう考え方のことで、この先働くうえでも自分の中で大切にしたい考え方だなって思ったね。

S：なるほど。Aさんありがとう。Bさんはどう？

B：なかなか難しいテーマだね…。ただ、**将来世代に問題を先送りにしない社会**を作りたいなとは思ってる。これは環境問題だけじゃなくて年金の問題とかでも同じだと思うんだけど。そういう問題意識をもったまま**目の前の地道なことを1つずつこなしていけるような働き方**ができたらいいなとは思うかな。

S：なるほど。自分たちは2025年に入省するわけだけど、気候変動対策についていえば、2030年46%削減目標、2050年カーボンニュートラルの実現が待っているわけで。その目標に対して中心的な存在にならなくちゃいけない世代だと思うんだよね。

B：そうそう。でも、**そうした大きな変化は結局は目の前の小さなことの積み重ね**だから自分もその1つを担えるといいのかなって。

S：すばらしいね。Cさんはどうかな？

C：自分はこれまでのお話で出なかった話でいくと、「**世界のために**」っていう軸も大事にしていきたいなって思ってる。これは自分の研究テーマがそうだったというのもあるんだけど、**環境は国境横断的な問題**だからこそ日本がリーダーシップをもってやらなくちゃいけない問題だと思うんだよね。日本の中の地方に目を向けるように、**世界の中での現場にもきちんと目を向ける**ことを大切にしたいって思うかな。

S：なるほど。具体的に携わりたい政策とかはあるの？

C：めちゃくちゃ具体的になっちゃうけど途上国で自国の需要電力を100%自国でまかなえていない国がいっぱいある中で、日本の技術支援の枠組みを充実させることで互いにwin-winな関係性を構築できないかなとは思ってるかな。

S：ふむふむ。そういう業務に携わりたくなっていったときにモデルになるような職員さんのお話はあったのかな？

C：途上国に話を限定すると環境省の中でもまだこれからなんだよね。ただ、国際的な仕事に携わっている職員さんのお話は官庁訪問で色々聞けたかな。例えば、気候変動枠組み条約の事務局で働いてた人の話からは、日本のためはもちろんだけど、**中立的な視点を持つことの重要性**についてお話していただいて、自分の中でも大切にしたいなって思ってる感じ。

S：留学とかもするの？

C：留学はどうか…。国際機関で働きたい気持ちは強いけど。たぶん語学についてはパスしなきゃいけない基準とかもあるから頑張らなきゃなんだけどね（笑）あと、職員さんの話を聞いてる感じ国際会議のお手伝いの仕事とかなら3年目くらいで担当することもあるみたいだからそんなに先の未来でもないと思うんだよね。

S：内定者の中でも**各々がいろんな想いで働くビジョンを抱えていて興味深い**ね。

## Q. 環境省を目指す人に向けてメッセージ

S：これから国家公務員を目指している人、あるいは環境省で働きたいと思っている人に向けて一言ずつメッセージをもらってもいいかな。そしたらAさんから。

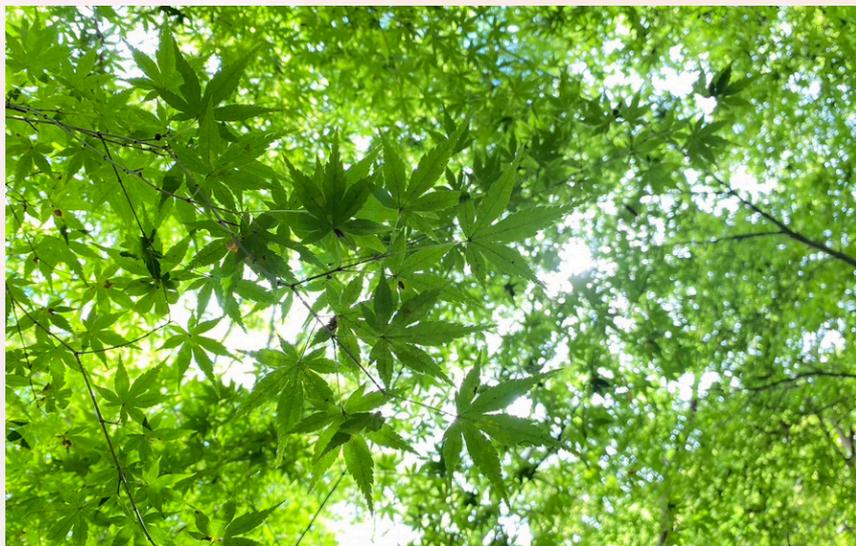
A：自分は環境省を目指し始めたのが4月とか5月と遅くて、それまで色々な企業とか省庁の説明を受けてたんだよね。でも、いざ勝負の環境省第3クールで自分の頭の中を整理するときに、環境省の説明会で聞いた話と同じくらい**他で聞いた話が役に立った**んだよね。環境省を目指すって頭になったときに**今まで学んだことがうまいことまとまっていく感覚**があったというか。つまり、何が言いたいかというと環境省を第一志望に考えている人ほど、**他の省庁や企業の話にも耳を傾けてみるのがいい**のかなって思います。**いろんな視点やアプローチがあるのを知って、環境省のことをより広い視野から捉えてみるのが最終的に役に立つ**かなって思います。

B：自分もAさんの考えにすごく共感します。自分の場合は、国家公務員を受けるなら第1志望の環境省だけでいいかなって思ってた時期もあって、他の省庁を見るのがすごく遅れてしまったんですよね。だけど、他の省庁でも環境に関する取り組みをしているのを知って、**そのことがより環境省の役割を理解することに繋がった**気がします。加えて、私が考える**環境省で働く魅力は、環境問題に対して包括的にアプローチ**できることです。というのも、環境問題は様々な人が関係する裾野が広い問題のため、「環境にいいことをしよう」の一点張りではなかなか解決が進みません。そのため、**環境のことだけでなく他のことに対しても広くアンテナを張って取り組むことが重要**であり、それが可能な組織が環境省なんだと思います。

C：自分も、ほんとに知れば知るほど環境省の働いてる人の魅力とか、やってることの幅広さ、面白さ、自分の研究分野との意外な繋がりみたいなところに気が付いたって感じなんだよね。繰り返しだけど、**いろんな情報を集めることでだんだん自分のやりたいことが精査**されていって、**自分の一番やりたいことにたどり着く**っていう**流れ**なんだと思います。加えて、今はやりたいことが変われば転職なども当たり前の時代なので**そこまで重く考えずに、今自分がやりたいことに目を向ける**ことが大切なのかなって思いますね。

S：Part 4は以上です！

A,B,C,S：ありがとうございました！



嵐山（京都府京都市）にて撮影

# 環境省志望者への メッセージ

就活を成功させるうえで、どれだけ早く準備を始められるか、どれだけ限られた時間を有効活用できるかが重要になると思います。早く準備を始め、時間を大事にしていれば、例えば公務員試験や官庁訪問まであと1年の時に「あと1年もある」ではなく「あと1年しかない」と思うことができ、あと1週間の時に「あと1週間しかない」ではなく「あと1週間もある」と思うことができると思います。就活は大変なことも多いですが、人生で最もしっかりと自分と向き合い、将来を考えられる機会でもあると思います。時間を大事にして頑張ってください！

この「内定者の声」を読まれている皆さんはおそらく、自らのこれからの進路についていろいろ悩まれている時期かと思います。私が就活を終えてみて感じることとしては、これほどまでに実際に働いておられる社会人の方々と互いにフラットな環境でお話を聞ける機会というのは今後はもうないのではないかということです。その意味では、今しかないこの 沢な期間にたくさんの方々からお話を聞いて、たくさん頭を悩ませることが結果的に自らが納得のいく選択に繋がると 생각합니다。皆さんの就活を心から応援しています。

やらなければいけないことは沢山あると思いますが、研究や課外活動など今やりたいことに一生懸命取り組むことも大切にしてほしいです。就活のために何かをするというよりも、目の前のやりたいことに取り組む過程が、就活でも自分の武器になり、自分が将来に向けて関わりたいことの発見につながるのではないかなと考えています。視野を広くもって色々なものを見つつ、その先で見つけた本当に就きたい仕事が公務員で、かつ環境省であれば嬉しいです。ぜひ、将来を真剣に考えながら、今しかない貴重な時間を楽しんで過ごしてください。応援しています！

環境省の説明会や官庁訪問で、環境問題への取り組みがより普遍的なものとなっていて、環境のこと以外にも目を向けることが大切であると実感しました。大学（院）の授業、他省庁の説明会への参加、民間企業からお話を聞くことなどを通して、視野を広げることが意識してもらえるといいのかなと思います。周りの人の就活状況などを耳にして焦りを感じることもありますが、自分がしたいことや、自分が大事にしたい価値観は何なのかを見つめ直し、あくまでも自分を基準として就活を乗り切ってください。皆さんにとって納得のいく就職活動になるよう、応援しています！

就職活動中は不安に感じることも多くあると思います。公務員試験の勉強は勿論ですが、とりわけ面接や官庁訪問対策は答えがなく、最後まで不安が完全に取除かれることはないと思います。一つ何かアドバイスができるのであれば、良くも悪くも考えすぎることなく、日頃考えていることや熱意を素直に伝えるということを徹底することが重要だと思います。同時に、就職活動は学生側が省庁・企業を選ぶ場所でもあります。職場や職員の方の雰囲気、仕事の内容、様々な要素を考え、最終的には皆さんが最も後悔のない選択ができるように祈っています！

伝えたいことが2つあります。1つ目は、未来の自分が後悔しない選択をしてほしいということです。公務員に限らず、就活を進める上で選択を迫られることは多々あると思います。私はそのようなとき、「やりたい方はどちらか」と考えると中々結論が出せなかったため、「将来後悔しない方はどちらか」と考えるようにしていました。2つ目は、悩んだときや苦しいときにはぜひ、自分の力だけでなんとかしようとせず身のまわりの人を頼ってほしいということです。私はよく、家族や友達に話を聞いてもらっていました。不安な気持ちだけでなく日々の幸せなんかも共有することで、元気が湧いてくると思います。皆さんのことを応援しています！

これから試験勉強や官庁訪問対策により力を入れていく時期に入り、きっと周りの受験生と自分を比較して劣等感に苛まれたり、途中で学業や他の就職活動との両立が大変になったりすることでしょう。途中で全てを放り出して遊びたくなることも沢山あると思います。しかし、人は熱意を持って自分なりのやり方で努力すれば必ず最適な未来を選ぶことができます。まずは自分の怠けたくなる気持ちや劣等感に負けることなく自分なりに頑張ってみてください。ある程度継続できたなと思ったら、周りの同じ夢を持つ人々と積極的に交流してみてください。お互いの夢を共有し合うことでよりモチベーションが高まり、良い効果を得られると思います。

まずは、この「内定者の声」を開き、読んでくださりありがとうございます。

「就職活動はマッチングの場」という表現がよく用いられますが、就職活動中にそれを聞いても「やっぱり選ばれてなんぼ」だと考えてしまうかもしれません。ただ、就職活動を終えた今、私はこの表現に共感しています。「選ばれなければ」と身構えて臨むよりも、気を張りすぎず、イベントや官庁訪問を通じて、自分の考えと志望先の方向性や職員の方々の志向が一致しているかを確かめながら志望先を考えていくことで、より長期的に納得がいく将来選択ができると思います。皆さんの納得できる内定を心より祈っております！そして、その選択先が環境省であれば大変嬉しく思います。

環境省に興味を持っていただき、ありがとうございます。就職活動中の方は、様々な選択肢を検討し、じっくりと考えた上で、最終的に環境省を選んでいただければ幸いです。また、官庁訪問を直前に控えている方もいらっしゃると思います。先輩や先生方から「官庁訪問はお祭りみたいなものだから、楽しんだもの勝ち」とよく言われました。実際、政策や自分の関心事について職員の方から一対一でお話を伺える機会は貴重だと思いますし、得難く、楽しい経験でした。緊張して当然ですが、空回りしてしまっただけではもったいないです。楽しむ気持ちを忘れずに望んでもらえれば、充実した官庁訪問になるのかなと思います。頑張ってください！

就活は自己分析とマッチング分析に限ると思っています。自分が仕事をする上で何を大事にしたいのか(いわゆる就活の軸や、どんな仕事がしたいか)を整理した上で、実際に説明会や官庁訪問で自分の軸と省庁の軸がどれくらいマッチするかを分析し、それを上手く伝えられるかどうかかなと思います。官庁訪問に限らず、就活全般にも同じことが言えるかなと思うので、色んな可能性を最後まで残した上で選択をする事をおすすめします。絶対これをやるんだ！という固い決意がある事もいい事ですが、実際に色んな選択肢を吟味していると意外なマッチングがあるかもしれません。みなさんがこれだと思える仕事に出会えることを祈っています！

将来について多く考え、悩むことがあると思いますが、自分が本当に何をしたいのか、どうなりたいのかを見つけられるいい機会だと思います。官庁訪問の対策中や官庁訪問中も、周りと比較して落ち込むことがあると思います。しかし、その中でも自分の経験を信じ、自分に素直になることが重要だと思います。私は、自信をなくしたときは、周囲の友人などに褒めてもらうことでやる気を取り戻していました。困った時はぜひ仲の良い人と話して、明るい気持ちで取り組んでみてください！みなさんのことを心より応援しています！

環境省は、知れば知るほど魅力的な省庁だと思います。できることも幅広く、働いている職員の方も素敵な人ばかりなので、ぜひたくさん説明会に参加して環境省の魅力を感じてもらえればと思います。今は先が見えず大変なことも多いかもしれませんが、結局なるようにしかならないので、今を大切にしつつ後悔のないように頑張ってください！何がしたいか、そこでどう働けるか？をとことん考えて、ぜひ素敵な進路決定をしてください。

## おわりに

最後まで「内定者の声」をお読みいただき、ありがとうございました。環境省の令和7年度内定者全12名の人となりや就職活動の経験談を通し、皆さんの進路選択がより一層最適なものになることを願っています。

本誌以外にも公式HPや各種SNS等で様々な情報を公開しておりますので、環境省が第一志望の方も、興味を持ち始めたばかりの方も是非目を通していただき、環境問題や環境行政、環境省の役割等について興味や関心を深めて就職活動に取り組んでもらえると嬉しいです。

最後になりますが、改めまして本誌を手にとってくださり誠にありがとうございました。皆さんの入省を令和7年度内定者一同お待ちしております。

## 関連リンク集

環境省ホームページ

<https://www.env.go.jp>

環境省YouTube

<https://m.youtube.com/user/kankyosho>

環境省X（旧Twitter）

[https://twitter.com/Kankyo\\_Jpn/](https://twitter.com/Kankyo_Jpn/)

環境省学生向けX（旧Twitter）

[https://twitter.com/moe\\_recruit](https://twitter.com/moe_recruit)

環境省Facebook

<https://www.facebook.com/KankyoJpn.gov>

環境省採用・キャリア形成支援Facebook

<https://www.facebook.com/moecareer/>

その他公式SNS等の情報はこちらから

<https://www.env.go.jp/guide/sns/index.html>

## 注意

- 本誌記載事項は、内定者の私見に基づくものであり、環境省の意向を反映させたものではありません。
- 本誌に使用しました写真およびイラストは、内定者が撮影した写真ならびに各種フリー素材を使用しました。
- デザイン・画像編集にはCanva (<https://www.canva.com/>) を使用しました。



**環境省**

Ministry of the Environment

令和7年度 環境省総合職事務系内定者

オシンコシンの滝（知床）にて撮影